

パーソナル オーディオシステム

取扱説明書・保証書

準備する

聞く

録音する

その他

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。

この取扱説明書と別冊の「BLUETOOTH®接続ガイド」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。





安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。危険です。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

3~6ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

定期的に点検する

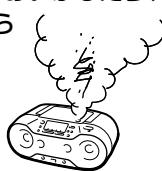
1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの相談窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーの相談窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



プラグをコンセントから抜く



指示

機器を本箱や組み立て式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所で使用しないでください。

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源ボタンを押して電源を切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。

電池は、直射日光、火などの過度な熱にさらさないでください。

付属の電源コードセットは、本機専用です。他の電気機器では使用できません。

機銘板は本機の底面にあります。

ご注意

この装置に対し光学機器を使用すると、目の危険を増やすことになります。

レーザーの仕様

- 放射時間:連続
- レーザー出力: $44.6 \mu\text{W}$ 未満

この出力値は、7mm の開口部にて光学ピックアップブロックの対物レンズ面より 200mm の距離で測定したものです。



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない

本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない。



禁止

内部に水や異物が入ると火災の原因となります。万一、水や異物が入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニー相談窓口にご依頼ください。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。



禁止

- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの相談窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や直射日光のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。とくに風呂場では絶対に使用しないでください。



禁止

海外では使用しない

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災や感電の原因となります。



指示

雷が鳴りだしたら、アンテナや電源プラグに触れない

感電の原因となります。ロッドアンテナ付き製品を屋外で使用中に、遠くで雷が鳴りだしたときは、落雷を避けるため、すぐにアンテナを縮めて使用を中止し、その後は触れないでください。



接触禁止

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

通風孔をふさがない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさがないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止



下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

内部を開けない

感電の原因となることがあります。
内部の点検や修理はお買い上げ
店またはソニーの相談窓口にご
依頼ください。



分解禁止

移動させるとき、長時間 使わないときは、電源ブ ラグを抜く

電源プラグを差し込んだま
ま移動させると、電源コー
ドが傷つき、火災や感電の原因となること
があります。

またロッドアンテナ付きの製品を持ち運ぶ
際は、目のけがなどをしないように、アン
テナを縮めてください。長期間の外出・旅
行のときは安全のため電源プラグをコンセ
ントから抜いてください。差し込んだまま
にしていると火災の原因となることがあります。



プラグをコン
セントから抜く

お手入れの際、電源プラ グを抜く

電源プラグを差し込んだま
まお手入れをすると、感電の
原因となることがあります。



プラグをコン
セントから抜く

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところ
などに置くと、製品が落ちてけが
の原因となることがあります。ま
た、置き場所の強度も充分に確認してくだ
さい。



禁止

大音量で長時間つづけて聞きす ぎない

耳を刺激するような大きな音量で
長時間つづけて聞くと、聴力に悪
い影響を与えることがあります。とくに
ヘッドホンで聞くときにご注意ください。
呼びかけられて返事ができるくらいの音量
で聞きましょう。



禁止

幼児の手の届かない場所に置く

CDぶたなどに手をはまれ、けが
の原因となることがあります。お
子さまがさわらぬようご注意く
ださい。



禁止

円形ディスク以外は使用しない

円形以外の特殊な形状(星型、ハ
ート型、カード型など)をしたディス
クを使用すると、高速回転により
ディスクが飛び出し、けがの原因となるこ
とがあります。



指示

電源プラグは抜き差ししやすい コンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコン
セントから抜いて、完全に電源が
切れるように、電源プラグは容易に手の届
くコンセントにつないでください。
通常、本機の電源スイッチを切っただけ
では、完全に電源から切り離されません。



指示

- 本製品の不具合により、録音や再生
ができなかった場合、および録音内
容が破損または消去された場合など、
いかなる場合においても録音内容の
補償についてはご容赦ください。

また、いかなる場合においても、当
社にて録音内容の修復、復元、複製
などはいたしません。

- 本製品を使用したことによって生じ
た金銭上の損害、逸失利益および第
三者からのいかなる請求につきま
しても、当社は一切その責任を負いか
ねます。

- お客様が録音したものは個人として
楽しむなどのほかは、著作権法上、
権利者に無断で使用できません。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記のことを必ずお守りください。

本製品では以下の電池をお使いいただけます。電池の種類については、電池本体上の表示をご確認ください。

乾電池

単2形アルカリ電池

⚠ 危険 乾電池が液漏れしたとき

乾電池の液が漏れたときは、素手で液をさわらない。

液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店、ソニーサービスステーションにご相談ください。

液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

⚠ 警告

- 小さい電池は飲みこむおそれがあるので、乳幼児の手の届くところに置かない。万が一飲みこんだ場合は、窒息や胃などへの障害の原因になるので、ただちに医師に相談する。
- 乾電池は、機器の表示に合わせて+と-を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。ショートさせない。
- コイン、キー、ネックレスなどの貴金属類と一緒に携帯・保管しない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 使いきった電池は取りはずす。
- 長期間使用しないときは電池を取りはずす。
- 水などでぬらさない。風呂場などの湿気の多いところでは使わない。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

⚠ 注意

- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり、傷つけたりしない。
- 指定された種類以外の電池は使用しない。
- 廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

目次

安全のために	2
準備する	
付属品を確かめる	8
電源を準備する	8
聞く	
CDを聞く	10
データCD(MP3/WMA)の	
フォルダや曲を選んで聞く	13
CDの取り扱いとお手入れについて	14
USB機器の音楽を聞く	15
フォルダや曲を選んで聞く	17
いろいろな再生方法でCDや	
USB機器の音楽を聞く	17
繰り返し聞く(リピート再生)	17
順不同に聞く(シャッフル再生)	18
選んだフォルダ内の曲だけを聞く	
(フォルダ再生)	19
聞きたい曲を好きな順に聞く	
(プログラム再生)	20
BLUETOOTH機器の音楽を聞く	22
ペアリングする	22
音楽を聞く	25
ラジオを聞く	27
受信状態をよくする	28
放送局を自動で登録する	
(プリセット登録)	30
記憶させた放送局を聞く	
(プリセット選局)	31
外部機器をつないで聞く	32
ヘッドホンをつないで聞く	33

録音する

CDをUSB機器に録音する	34
録音フォーマットについて	34
CDをUSB機器に録音する	
(シンクロ録音)	34
録音した曲を削除する	37
USB機器のフォルダ構成	38

その他

困ったときは	40
メッセージ一覧	45
使用上のご注意	46
主な仕様	47
再生できるディスクについて	49
本機で使用できる機器について	50
再生できるファイルについて	50
BLUETOOTH機器について	51
BLUETOOTH無線技術について	52
各部のなまえ	54
サポートページのご案内	57
保証書とアフターサービス	57
索引	58

付属品を確かめる

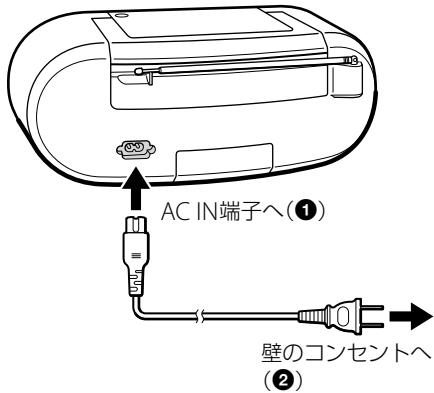
箱から出したら、付属品(48ページ)がそろっているか確認してください。

電源を準備する

本機は家庭用電源、または乾電池(別売)のいずれかを選んでお使いになれます。

電源コードを接続する

本体のAC IN端子へ差し込んだあと(①)、壁のコンセントへ差し込んでください(②)。

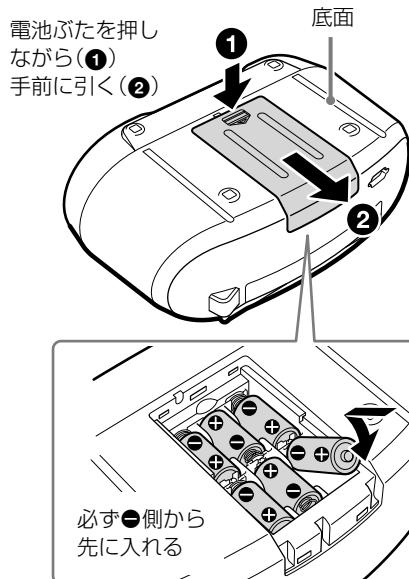


電源コードのプラグの先端がAC IN端子の奥に当たるまでしっかりとプラグを差し込んでください。

乾電池を使用する

電池ふたを開き、別売りの単2形乾電池6本を
+と-の向きを正しく入れてください。

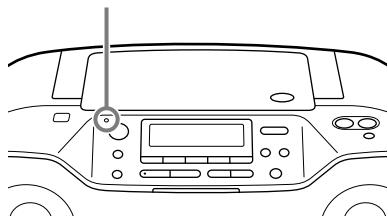
乾電池でお使いになるときは、電源コードは抜いてください。



乾電池の交換について

乾電池のみで使用中、乾電池が消耗していくと電源/電池ランプが暗くなったり、自動で電源が切れたりします。このようなときは、すべて新しい電池に交換してください。

電源/電池ランプ



ご注意

- 電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
- **⊕と⊖の向きを正しく入れてください。**
 - 新しい電池と使用した電池、または種類の違う電池を混ぜて使わないでください。
 - 長い間本機を使わないときは、電池を取り出してください。
 - 本機では市販のニッケル水素電池などの充電池は使用できません。
 - 本機をマンガン乾電池でお使いの場合、使用時間が著しく短くなることがあります。アルカリ乾電池でお使いください。
 - 乾電池を出し入れするときは、本体やCD、USB機器などが傷つくのを防ぐために次のことを必ず守ってください。
 - CDを取り出す。
 - USB機器を抜く。
 - FM用ロッドアンテナを元の位置に戻す。

電源について

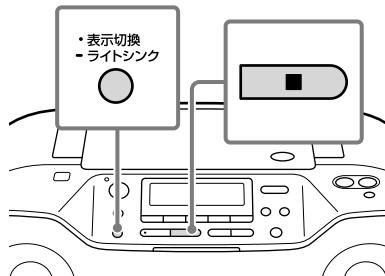
本機は電源ボタンだけでなく、CDボタン、USBボタン、BLUETOOTHボタン、ラジオFM/AMボタン、音声入力ボタンでも電源を入れることができます。これらのボタンで電源を入れた場合は、電源が入ると同時に選んだ音源に切り換わります。

電源を切るには、もう一度電源ボタンを押します。(電源/電池ランプが消灯します。)



オートスタンバイ機能について

本機はオートスタンバイ機能を搭載しています。このオートスタンバイ機能によって、無操作または無音の状態が15分経過すると、本機は自動的にスタンバイモードに移行します。お買い上げ時の初期設定ではオンになっていますが、オフに切り換えることもできます。オートスタンバイ機能をオフに切り換えるには、■ボタンを押しながら表示切換ボタンを押してください。「AUTO STANDBY OFF」と表示されます。オンに切り換えるには、もう一度■ボタンを押しながら表示切換ボタンを押してください。「AUTO STANDBY ON」と表示されます。



ちょっと一言

- スタンバイモードに移行する2分前になると、その時点で表示窓に表示されている情報が点滅を始めます。
- 以下の場合は、オートスタンバイ機能を有効にしてもスタンバイモードへ移行しません。
 - ラジオ(AMまたはFM)受信中
 - 音声入力ファンクション時

保護シートについて

「スマートフォンをタッチするとき本機に傷が付くのを防ぐために」(別紙)をご覧になり、付属の保護シートを本機に貼ってください。

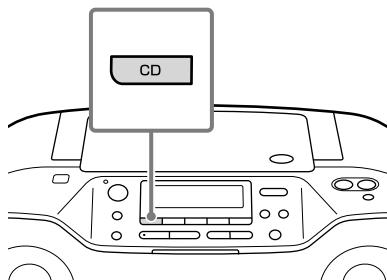
聞く

CDを聞く

再生可能なディスクのタイプとファイルフォーマットについて詳しくは、「再生できるディスクについて」(49ページ)、「再生できるファイルについて」(50ページ)をご覧ください。

1 CDボタンを押す。

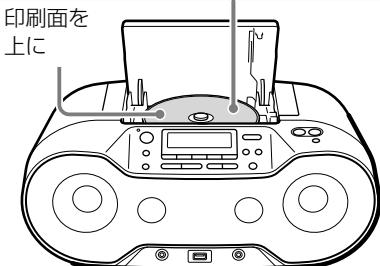
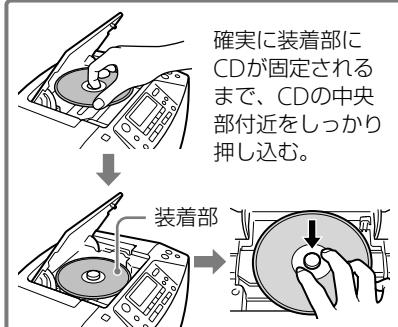
電源が入ります。



2 開/閉△部を押してCDぶたを開ける。



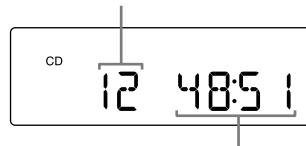
3 CDを入れて、CDぶたを閉める。



CDが読み込まれると、表示窓にCDの情報が表示されます。

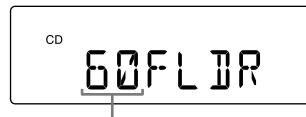
音楽CDの場合

総トラック数



総再生時間

データCD(MP3/WMA)の場合



総フォルダ数

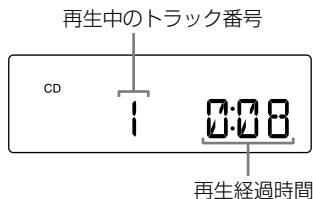
4 ►||ボタンを押す。

再生が始まります。



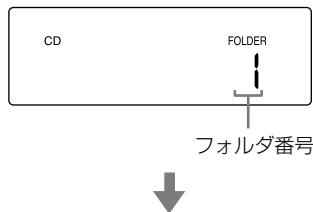
再生中は、現在再生している曲の情報が表示窓に表示されます。

音楽CDの場合

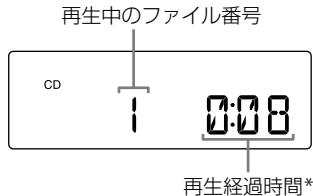


データCD(MP3/WMA)の場合

- ►||ボタンを押してから再生が始まるとまで



- 再生中

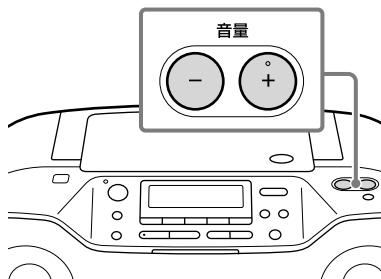


* 総再生時間が100分を超えたときは、「---」と表示されます。

データCD(MP3/WMA)の再生について
は、「データCD(MP3/WMA)の再生の順番について」(12ページ)や「データCD
(MP3/WMA)のフォルダや曲を選んで聞く」(13ページ)もあわせてご覧ください。

音量を調節するには

音量+または-ボタンを押す。音量レベルは「0」から「VOL MAX」(31)まで調節できます。

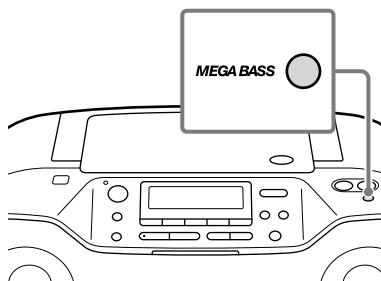


迫力のある重低音を楽しむには

MEGA BASSボタンを押す。

表示窓に「MEGA BASS」と表示されます。音量を上げてもひずみにくく、また小音量時でも迫力のある低音が得られます。

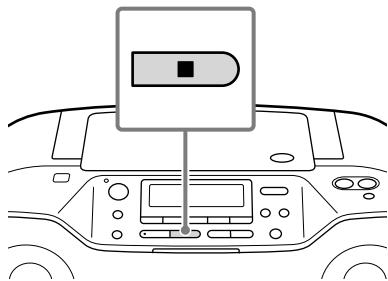
MEGA BASSをオフにするには、MEGA BASSボタンをもう一度押します。



聞く

再生をやめるには

■ボタンを押す。



再生中に一時停止するには

▶▷ボタンを押す。もう一度押すと再生が始まります。

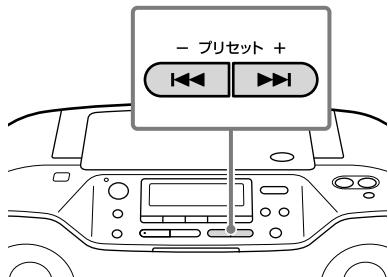


ちょっと一言

■ボタンで再生を停止し、次に▶▷ボタンを押すと、前回再生を停止した曲の頭から再生されます。停止したあと、もう一度■ボタンを押して▶▷ボタンを押すと、音楽CDの場合は1曲目の始めから、データCD(MP3/WMA)の場合は1フォルダ目の1曲目の始めから再生されます。

曲の頭に戻す／次の曲へ進むには

◀◀または▶▷ボタンを押す。



曲を聞きながら聞きたい部分を探すには
再生中に◀◀または▶▷ボタンを押したままにする。

表示窓の再生時間を見ながら聞きたい部分を探すには

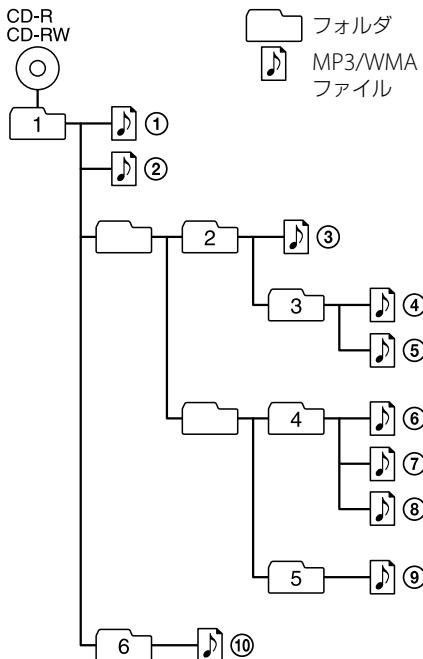
一時停止中に◀◀または▶▷ボタンを押したままにする。

CDを取り出すには

開/閉▲部を押してCDふたを開け、CDを取り出す。再生中の場合は、■ボタンを押し、再生を止めてから取り出してください。

データCD(MP3/WMA)の再生の順番について

MP3またはWMAフォーマットのファイルを記録したデータCDでは、フォルダ構成や書き込みの方法によって再生の順番が異なる場合があります。次の図のデータCDの例では、①から⑩の順にファイルが再生されます。



(使用できる最大ディレクトリ階層:9階層*)

* USBの場合は、8階層になります。

ご注意

- 本機が認識できるディスク上の最大フォルダ数は511、最大ファイル数は511です。この数を超える場合、本機では再生できません。
- ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によっては、再生が始まるまでに時間がかかったり、再生されない場合があります。
- データCD(MP3/WMA)には、MP3/WMA以外のフォーマットのファイルや不要なフォルダを書き込まないでください。
- 本機が対応するオーディオファイルのフォーマットは次のとおりです。
 - MP3:拡張子「.mp3」
 - WMA:拡張子「.wma」

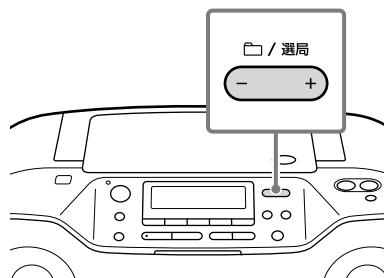
上記に該当する拡張子をファイル名が持っていても、フォーマットが異なっている場合は、本機では再生できない、または再生するときに不具合が生じる場合があります。

データCD(MP3/WMA)のフォルダや曲を選んで聞く

聞きたいファイルや、ファイルが入っているフォルダを選んで、再生を始めることができます。

1 CDボタンを押してCDファンクションに切り換える、CDを入れる(10ページ)。

2 □+または-ボタンを押してフォルダを選ぶ。



3 再生を始める。

選んだフォルダの1曲目から再生を始める場合

▶▷ボタンを押す。
再生が始まります。

フォルダ内の曲を選んで再生を始める場合

◀◀または▶▶ボタンを押して曲を選び、
▶▷ボタンを押す。
再生が始まります。

聞く

CDの取り扱いとお手入れについて

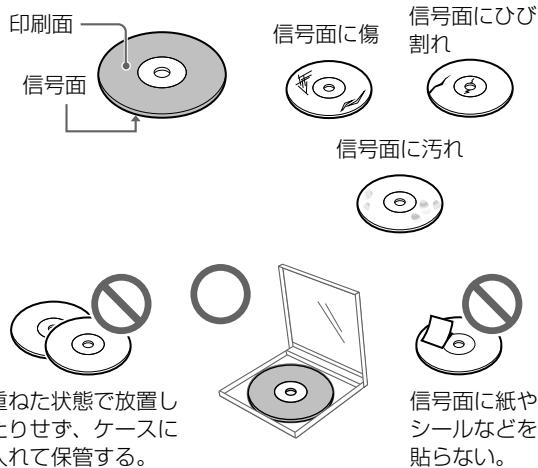
CDをより良い音質でお楽しみいただくには、取り扱いに注意し、いつでも正常に再生できるように、日頃からCDをきれいな状態に保つことが肝心です。

CDの信号面に生じた傷やひび割れ、指紋やほこりによる汚れは、音質低下の原因となるとともに、「今まで再生できていたのに再生できなくなった」などの再生不良の原因になります。

CDの取り扱いかた

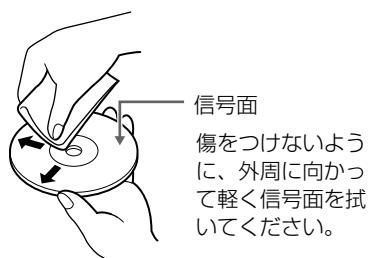
信号面に傷やひび割れが生じると、状態によってはCDの再生ができなくなります。指紋やほこりなどの汚れは、CD再生時のエラーや音質低下の原因となります。

CDを取り扱う際は、傷や汚れをつけないように、信号面(文字が書かれていない面)には触れないように持ってください。また、長時間再生しないときは、ケースに入れて保管してください。ケースに入れずに重ねた状態で置いたり、ななめに立てかけて放置するなどすると、傷がついたりそりの原因となります。



CDのお手入れのしかた

CDが汚れているときは、傷がつかないやわらかい布や市販のクリーニングクロスで信号面を軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水で少し湿らせて拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。



ご注意

ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、CDを傷めることができますので使わないでください。

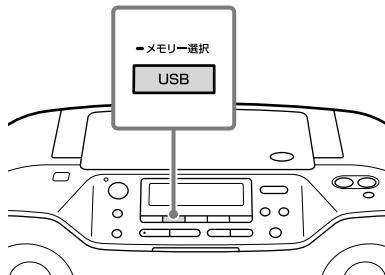
USB機器の音楽を聞く



再生可能なUSB機器のタイプとファイルフォーマットについて詳しくは、「本機で使用できる機器について」(50ページ)、「再生できるファイルについて」(50ページ)をご覧ください。

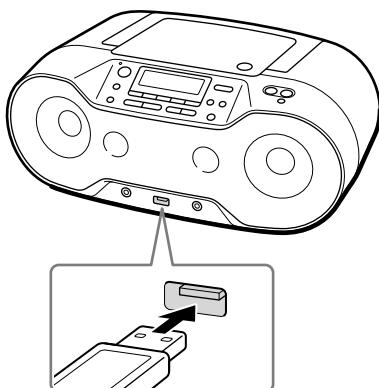
1 USBボタンを押す。

電源が入ります。



2 USB機器を差し込む。

「READING」と表示されます。表示窓に「READING」が表示されている間は、USB機器を抜かないでください。



USB機器に記録されているファイルやフォルダの数によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。

USB機器が読み込まれると、表示窓にUSB機器の情報が表示されます。



総フォルダ数

ご注意

本機ではUSB機器を充電できません。

3 ▶▷ボタンを押す。

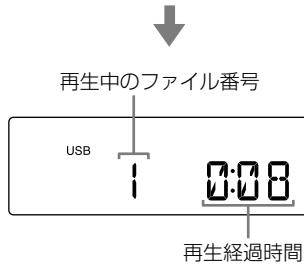
再生が始まります。



再生が始まると、フォルダ番号が表示されたあと、再生中のファイル番号と再生経過時間が表示窓に表示されます。



フォルダ番号



再生中のファイル番号

0:08

再生経過時間*

* 総再生時間が100分を超えたときは、「--:--」と表示されます。

聞く

音量を調節するには

音量+または-ボタンを押す(11ページ)。
音量レベルは0からVOL MAX(31)まで調節
できます。

迫力のある重低音を楽しむには

MEGA BASSボタンを押す(11ページ)。

再生をやめるには

■ボタンを押す(12ページ)。

再生中に一時停止するには

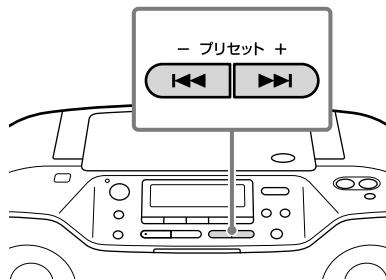
▶■ボタンを押す。もう一度押すと再生が始
まります。

💡 ちょっと一言

■ボタンで再生を停止し、次に▶■ボタンを押すと、前回再生を停止したところから再生されます。停止
したあと、もう一度■ボタンを押して▶■ボタンを
押すと、1フォルダ目の1曲目の始めから再生され
ます。

曲の頭に戻す／次の曲へ進むには

◀◀または▶▶ボタンを押す。



曲を聞きながら聞きたい部分を探すには

再生中に◀◀または▶▶ボタンを押したまま
にする。

表示窓の再生時間を見ながら聞きたい部 分を探すには

一時停止中に◀◀または▶▶ボタンを押した
ままにする。

USB機器を取り外すには

- ボタンを押したままにし、「NO DEV」が
表示されたら指を離す。



「NO DEVICE」とスクロール表示された
あとで、「NO DEV」の表示になります。

- USB端子からUSB機器を抜く。

ご注意

- 表示窓に「READING」が表示されている間は、
USB機器を抜かないでください。データが破損す
るおそれがあります。
- USB機器が認識されない場合は、USB機器を抜き、
もう一度差し込み直してください。
- USB機器を抜くときは、必ず上記「USB機器を取
り外すには」の手順に従ってください。上記の手
順に従わずにUSB機器を抜くと、USB機器内の
データが破損したり、USB機器そのものが壊れる
おそれがあります。

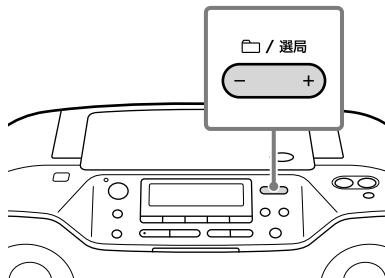
USB機器の再生の順番について

USB機器に録音された曲の再生の順番は、
データCD(MP3/WMA)と同じように、フォ
ルダ構成や書き込みの方法によって異なる場
合があります。詳しくは「データCD(MP3/
WMA)の再生の順番について」(12ページ)
をご覧ください。

フォルダや曲を選んで聞く

聞きたいファイルや、ファイルが入っているフォルダを選んで、再生を始めることができます。

- 1** USBボタンを押してUSBファンクションに切り替え、USB機器を差し込む(15ページ)。
- 2** □+または-ボタンを押してフォルダを選ぶ。



3 再生を始める。

選んだフォルダの1曲目から再生を始める場合

- ▶▷ボタンを押す。
再生が始まります。

フォルダ内の曲を選んで再生を始める場合

- ◀◀または▶▶ボタンを押して曲を選び、
▶▷ボタンを押す。
再生が始まります。

いろいろな再生方法でCDやUSB機器の音楽を聞く

繰り返し聞く(リピート再生)

CDやUSB機器の1曲または全曲を繰り返して聞くことができます。

CDまたはUSB機器の停止中に、モード切換ボタンを繰り返し押す。



リピート再生は次の4種類あります。

- 1曲だけ繰り返す(↖ 1)
- 全曲を繰り返す(↖)
- 選んだフォルダ内の全曲を繰り返す
(データCD(MP3/WMA)のみ)(↖、□)
- プログラム登録した曲を繰り返す(↖、PGM)

1曲だけ繰り返すには

- 1 「 1」が表示されるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。
- 2 ▶◀または▶▶ボタンを押して曲を選び、▶▷ボタンを押す。
フォルダ内の曲を選ぶときは、□+または-ボタンを押してフォルダを選んでから▶◀または▶▶ボタンを押します。

全曲を繰り返すには

- 1 「」が表示されるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。
- 2 ▶▷ボタンを押す。

選んだフォルダ内の全曲を繰り返すには (データCD(MP3/WMA)、USB機器のみ)

- 1 「」と「□」が表示されるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。
- 2 □+または-ボタンを押してフォルダを選ぶ。
- 3 ▶▷ボタンを押す。

プログラム登録した曲を繰り返すには

- 1 「聞きたい曲を好きな順に聞く(プログラム再生)」(20ページ)の手順1から手順4を行う。
- 2 「」と「PGM」が表示されるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。
- 3 ▶▷ボタンを押す。

リピート再生をやめるには

- ボタンを押してリピート再生を停止し、「」または「 1」の表示が消えるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。

順不同に聞く(シャッフル再生)

CDやUSB機器に入っている全曲を順不同に聞くことができます。

- 1 CDまたはUSB機器の停止中に、「SHUF」が表示されるまでモード切換ボタンを繰り返し押す。



音楽CDの場合



データCD(MP3/WMA)の場合*



* USBのときもファンクション名以外は同じ表示になります。

- 2 ▶▷ボタンを押す。

シャッフル再生が始まります。



ご注意

- 再生中または一時停止中にシャッフル再生の設定はできません。
- シャッフル再生中に◀◀ボタンを押すと、再生中の曲の頭に戻ります。ひとつ前に再生された曲に戻ることはできません。

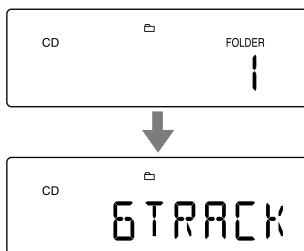
シャッフル再生をやめるには

- ボタンを押してシャッフル再生を停止し、「SHUF」の表示が消えるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。

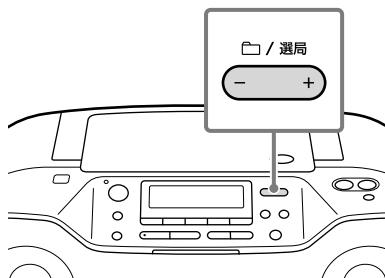
**選んだフォルダ内の曲だけを聞く
(フォルダ再生)**

データCD(MP3/WMA)とUSB機器では、選択中のフォルダ内の全曲を最初から順に再生することができます。

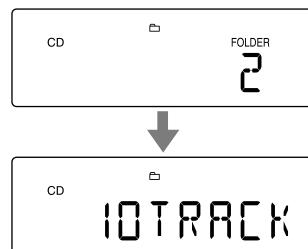
- 1 停止中に「□」が表示されるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。**
フォルダの番号1が表示されたあと、フォルダ内の曲数が表示されます。



- 2 □+または-ボタンを押してフォルダを選ぶ。**



選んだフォルダ内の曲数が表示されます。



- 3 ▶▷ボタンを押す。**

選んだフォルダの曲の再生が始まります。

フォルダ再生をやめるには

- ボタンを押してフォルダ再生を停止し、「□」の表示が消えるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。

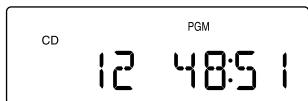
聞きたい曲を好きな順に聞く (プログラム再生)

聞きたい曲を聞きたい順に25曲までプログラム登録することができます。

- 1 CDまたはUSB機器の停止中に、「PGM」が表示されるまでモード切換ボタンを繰り返し押す。



音楽CDの場合



データCD(MP3/WMA)の場合*



* USBのときもファンクション名以外は同じ表示になります。

- 2 ◀◀または▶▶ボタンを押して曲を選択。

データCD(MP3/WMA)とUSB機器では、□+または-ボタンを押してフォルダを選んでから曲を選んでください。

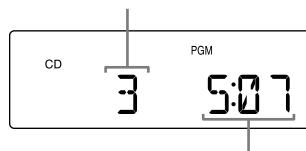


- 3 決定ボタンを押す。



何曲目にプログラムされたか(STEP数)が表示されたあと、最後にプログラムした曲のトラック番号とプログラムの合計再生時間が表示されます。

最後にプログラムした曲の
トラック番号



合計再生時間*

* 合計再生時間が100分を超えたときと、データCD(MP3/WMA)とUSB機器では、「--:--」と表示されます。

4 引き続き曲を登録する場合は、手順2と3の操作を繰り返す。

5 ▶IIボタンを押す。

プログラムした順に再生が始まります。



プログラム再生が終わっても、登録したプログラムは保持されます。▶IIボタンを押すと、同じプログラムをもう一度聞くことができます。

ご注意

- 再生中または一時停止中にプログラム再生の設定はできません。
- CDふたを開けたり、USB機器を抜くと、登録したプログラムの内容は消去されます。

プログラムした曲の総数と合計再生時間を調べるには

停止中に表示切換ボタンを繰り返し押す。
ボタンを押すたびに、次のとおり表示が切り換わります。

プログラムした曲の総数



最後にプログラムした曲のトラック番号と合計再生時間*

* データCD(MP3/WMA)とUSB機器では、「--:--」と表示されます。

プログラム再生をやめるには

■ボタンを押してプログラム再生を停止し、「PGM」の表示が消えるまで、モード切換ボタンを繰り返し押す。

プログラムを削除するには

停止中に■ボタンを押す。

「NO STEP」が表示され、そのとき登録されていたプログラムの内容が削除されます。

BLUETOOTH機器の音楽を聞く



別冊の「BLUETOOTH®接続ガイド」も合わせてご覧ください。

ペアリングする

ペアリングとは

BLUETOOTH機器では、あらかじめ、接続する互いの機器を登録しておく必要があります。この登録のことを「ペアリング」といいます。ペアリングは初めて接続する機器に対して必要な操作で、一度ペアリングで機器を登録すれば次回からはペアリングの操作の必要はありません。

お使いの機器に合わせて、以下の2つのパターンからペアリングの方法をお選びください。NFC機能に対応しているAndroid搭載スマートフォンの場合は、パターンBの方法で本機に「タッチするだけ」でペアリングが完了します。

NFC機能に対応していないスマートフォンやiPhoneその他のBLUETOOTH機器の場合には、パターンAをご利用ください。なお、パターンAをご利用の場合は、本機と機器との距離が1m以内になるように配置してペアリングを行ってください。接続する機器の使いかたについて詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

NFC機能に対応していないスマートフォンやiPhoneその他のBLUETOOTH機器でペアリングするとき:

パターンA へ(22ページ)

NFC機能に対応しているAndroid搭載スマートフォンでペアリングするとき:

パターンB へ(24ページ)

操作をはじめる前に、以下をご確認ください。

- 電源コードが接続されているか、本機の電源/電池ランプが点灯している。
- 接続するスマートフォンやBLUETOOTH機器の取扱説明書を準備する。

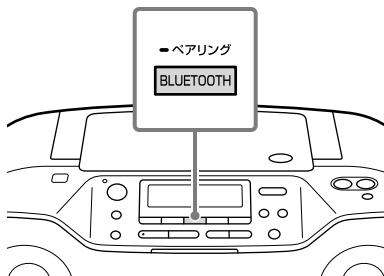
パターンA

NFC機能に対応していないスマートフォンやiPhoneその他のBLUETOOTH機器でペアリングするとき

1 本機のペアリングボタンを押す。

電源が入ります。

ご購入後に初めてペアリングボタンを押したときなど、ペアリングを一度も行っていない場合は、BLUETOOTHアイコン(Bluetooth)と「PAIRING」が点滅し始め、自動的にペアリングモード(機器登録モード)になります。



2台目以降の機器をペアリングする場合

本機の電源が入った状態で、ペアリングボタンをスピーカーから「ピピッ」と音がするまで(約2秒間)押したままにする。

本機は合計9台までのBLUETOOTH機器をペアリングしてお使いいただけます。

ペアリングを途中でやめるには、

「PAIRING」の表示が切り換わるまで、ペアリングボタンを押したままにしてください。

ご注意

ご購入後にはじめて機器をペアリングする場合は、ペアリングが完了するまでペアリングモードは解除されず、BLUETOOTHアイコン(❸)と「PAIRING」が点滅し続けます。

すでに他の機器がペアリングされている場合は、ペアリングモードは約5分で解除されます。ペアリングモードが解除されるとBLUETOOTHアイコン(❸)が消え、「NO BT」と表示されます。手順が完了する前に本機のペアリングモードが解除されてしまった場合は、もう一度はじめからやり直してください。

2 接続するBLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能をオンにする。

詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 接続するBLUETOOTH機器でペアリング操作を行い、本機を検索する。

4 接続するBLUETOOTH機器の画面に表示されている「SONY:ZS-RS70BT/BTB」を選び、決定する。

BLUETOOTH機器の画面に「SONY:ZS-RS70BT/BTB」が表示されない場合は、もう一度手順2から操作してください。

ご注意

機器によっては検出した機器の一覧を表示できない場合があります。

5 接続するBLUETOOTH機器の画面でパスキー*の入力を要求されたら「0000」を入力する。

BLUETOOTH接続が完了すると、BLUETOOTHアイコン(❸)が点滅から点灯に変わり、本機の表示窓に「BT AUDIO」と表示されます。

* パスキーは、パスコード、PINコード、PINナンバー、パスワードなどと呼ばれる場合があります。



ご注意

- 本機のパスキーは「0000」に固定されています。パスキーが「0000」でないBLUETOOTH機器とペアリングすることはできません。

- 一度ペアリングすれば再びペアリングする必要はありませんが、以下の場合は再度ペアリングが必要です。

- ペアリング済みの機器が9台に達した状態で、新たにペアリングしようとしたとき。

本機は合計9台までのBLUETOOTH機器をペアリングすることができます。9台分をペアリングしたあと新たな機器をペアリングすると、9台の中で最後に接続した日時が最も古い機器のペアリング情報が、新たな機器の情報で上書きされます。

- 本機は複数の機器とペアリングできますが、それらの機器の音楽を同時に再生することはできません。

パターンB

NFC機能に対応しているAndroid搭載スマートフォンでペアリングするとき

Android搭載スマートフォンでタッチするだけで、自動的に本機の電源が入り、Android搭載スマートフォンのペアリングや接続ができます。ここでは、搭載OSがAndroid 4.1以降で、「NFC(FeliCa)」対応のおサイフケータイ機能を持つAndroid搭載スマートフォンでのワンタッチ接続(NFC)の手順について説明します。

対応するAndroid搭載スマートフォンについて

- ワンタッチ接続(NFC)でお使いいただけるAndroid搭載スマートフォンの対応モデルは、以下のサポートサイトでご確認ください。
<http://www.sony.jp/support/radio/>

NFCとは

携帯電話やICタグなど、さまざまな機器間で近距離無線通信を行うための技術です。指定の場所に「タッチする」だけで、簡単にデータ通信が可能となります。

保護シートについて

「スマートフォンをタッチするとき本機に傷が付くのを防ぐために」(別紙)をご覧になり、付属の保護シートを本機に貼ってください。

1 Android搭載スマートフォンのNFC機能をオンにする。

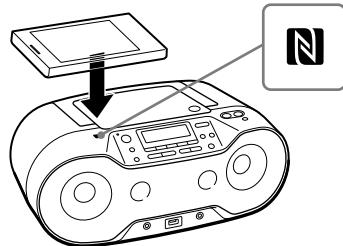
詳しくは、お使いのAndroid搭載スマートフォンに付属の取扱説明書をご覧ください。

2 Android搭載スマートフォンを本機にタッチする。

本機のNマーク部分にAndroid搭載スマートフォンをタッチします。

Android搭載スマートフォンが反応するまで、タッチし続けてください。

本機を認識するとAndroid搭載スマートフォンが反応します。



ご注意

Android搭載スマートフォンの画面がロックされた状態では、Android搭載スマートフォンが動作しません。画面のロックを解除してから、本機にタッチしてください。

本機の表示窓に「BT AUDIO」と表示されたら、本機とAndroid搭載スマートフォンの接続が完了した状態になります。



ちょっと一言

- 接続がうまくいかないときは次のことを行ってください。
 - Android搭載スマートフォンを本機のNマーク部分の上でゆっくり動かす。
 - Android搭載スマートフォンにケースを付けている場合は、ケースをはずす。
- 接続を切断するには、もう一度タッチします。
- ヘッドホンなど他のNFC対応機器に接続しているAndroid搭載スマートフォンを本機にタッチすると、ワンタッチで本機に接続を切り換えることができます(乗り換え機能)。

BLUETOOTHスタンバイ機能を使うには

BLUETOOTHスタンバイ機能をオンにしておくと、BLUETOOTH機器の接続操作で自動的に本機の電源が入り、操作することができます(本体に電源コードが接続されているときのみ)。

お買い上げ時の初期設定ではオフの状態ですが、お好みに応じてオン／オフを切り換えることができます。

BLUETOOTHスタンバイ機能をオンにするとき

BLUETOOTHボタンを押してBLUETOOTHファンクションに切り替え、表示窓に「BT STANDBY ON」と表示されるまで、電源ボタンを押したままにする。



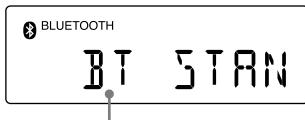
「BT STANDBY ON」とスクロール表示されたあと、本機の電源が切れてスタンバイ状態になります。



スタンバイ中は表示窓に「STANDBY」と表示されます。

BLUETOOTHスタンバイ機能をオフにするとき

BLUETOOTHボタンを押してBLUETOOTHファンクションに切り替え、表示窓に「BT STANDBY OFF」と表示されるまで、電源ボタンを押したままにする。



「BT STANDBY OFF」とスクロール表示されたあと、本機の電源が切れます。

ご注意

- 本機を乾電池でお使いの場合は、BLUETOOTHスタンバイ機能は使えません。電源コードを接続してお使いください。
- 電源ボタンを押したままにすると、BLUETOOTHスタンバイ機能のオン／オフが切り換わってしまうため、本機の電源を切るときに電源ボタンを押したままにしないようご注意ください(電源ボタンを短く押す)。

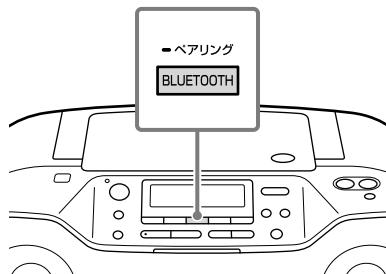
音楽を聞く

聞く

- お使いになるスマートフォンやBLUETOOTH機器とのペアリングを完了させてください(22、24ページ)。
- 操作はスマートフォンやBLUETOOTH機器によって異なることがあります。機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 本機のBLUETOOTHボタンを押す。

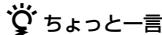
すでにペアリングが済んでいるときは、本機のBLUETOOTHボタンを押すだけで自動的に機器の検出が始まり、BLUETOOTH接続が完了します。ただし、お使いの機器によっては自動検出に対応していないものもあります。また、機器をお使いの状況によっても接続されない場合があります。その場合は、「ペアリング済みの機器が自動で接続されないときは」(26ページ)の操作を行ってください。



接続が完了すると、接続先のデバイス名が表示されたあと、「BT AUDIO」と表示されます。

2 BLUETOOTH機器の音楽を再生して、音量を調節する。

まず、接続したBLUETOOTH機器側で適度な音量にして、次に本機の音量+または-ボタンで調節します。



ちょっと一言

本機はSCMS-T方式のコンテンツ保護に対応しています。SCMS-T方式対応の携帯電話やワンセグTVなどの音楽(または音声)を、本機で聞くことができます。

BLUETOOTH接続を終了するには

以下の手順のいずれかを行ってください。

- BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能をオフにする。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- BLUETOOTH機器の電源を切る。
- 本機のファンクションを切り換える。
- 本機の電源を切る。
- もう一度本機にタッチする(NFC機能に対応しているAndroid搭載スマートフォンの場合)。

迫力のある重低音を楽しむには

MEGA BASSボタンを押す(11ページ)。

接続しているBLUETOOTH機器の名前を確認するには

BLUETOOTH機器が接続されている状態で、表示切換ボタンを押す。



ペアリング済みの機器が自動で接続されないときは

機器を検出できず、接続が完了しなかった場合は、本機の表示窓に「NO BT AUDIO」とスクロール表示されたあと、「NO BT」表示されます。

その場合は以下の操作をしてください。



1 BLUETOOTH機器のBLUETOOTH機能がオン(有効)になっているか確認する。

2 BLUETOOTH機器の画面に表示されている「SONY:ZS-R570BT/BTB」を選ぶ。

ペアリング情報を消去するには

1 BLUETOOTHボタンを押す。

2 「BT RESET」と表示されるまで、消去ボタンを押したままにする。

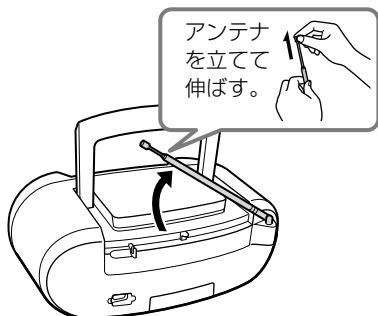
3 決定ボタンを押す。

登録されているすべてのペアリング情報が消去され、「COMPLETE」と表示されます。途中で消去をキャンセルしたい場合は、決定ボタンを押す前に■ボタンを押してください。

ラジオを聞く

1 FMアンテナを立てて伸ばす(FM放送を受信する場合のみ)。

FM放送を受信するときは、あらかじめFMアンテナを立てて伸ばしてください。AM放送を受信する場合にはFMアンテナを立てる必要はありません。AM受信用のアンテナは本体内蔵されています。



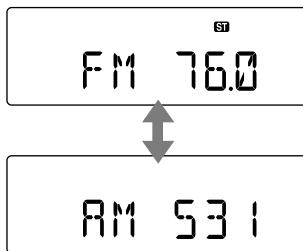
2 ラジオFM/AMボタンを押す。

電源が入ります。



3 ラジオFM/AMボタンを押してFMまたはAMを選ぶ。

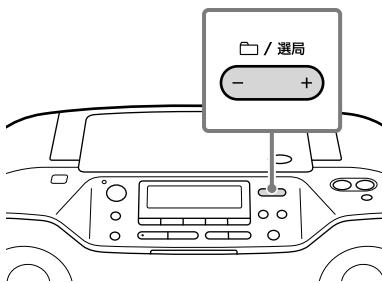
「FM」または「AM」と、周波数が表示されます。FMとAMを切り換える場合は、再びラジオFM/AMボタンを押します。



聞く

4 選局+またはーボタンを押したままにし、周波数の数字が動き始めたら指を離す。

受信状態の良い放送局が見つかると、周波数の数字の動きが自動的に止まり、放送を受信します。受信できなかったときは、聞きたい局の周波数に切り換わるまで、選局+またはーボタンを繰り返し押します。



FMステレオ放送を受信すると、表示窓に「ST」と表示されます。

音量を調節するには

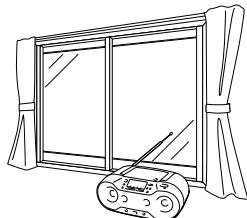
音量+または-ボタンを押す(11ページ)。

迫力のある重低音を楽しむには

MEGA BASSボタンを押す(11ページ)。

受信状態をよくする

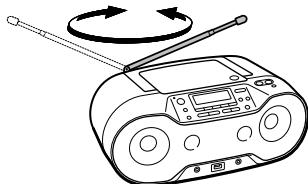
窓際など、電波を受信しやすい場所でお使いください。また、受信したい放送に合わせてアンテナを調整してください。



FM放送のとき

・アンテナの水平方向の調整

FMアンテナの水平方向を調整する。本体にぶつからない程度にFMアンテナを傾けた状態で回転させてください。アンテナを立てたまま回転しようとすると、アンテナを破損する恐れがあります。



・アンテナの長さ、角度の調整

FMアンテナを伸ばし、長さと垂直方向の角度を調整する。

角度は0°～180°の範囲で傾けて調整できます。
長さは180mm～670mmの範囲で長さ調整できます。



AM放送のとき

本体を最も受信状態の良い方向へ向ける。

(AMのアンテナは本体内蔵されています。)



ご注意

- FMアンテナの長さを調整する場合は、FMアンテナの一一番太い部分と先端を手で持って伸縮させてください。
- FMアンテナ角度、向きを調整する場合は、必ずFMアンテナの一一番太い部分を持って調整してください。先端部を持ったり過剰な力を加えてFMアンテナを傾けたり回転させると、アンテナを破損する場合があります。
- 本機に人の手が触れていると電波状況が変わることがあります。手を触れない状態で、電波状況が良い場所を探してください。

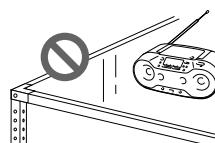
次のような場所では受信状態が悪くなることがあります。



ビルの谷間



家電製品や
携帯電話の
近く



金属製の机や
台の上

FMステレオ放送の雑音が気になるときは

FMステレオ放送の受信中に雑音が多いときは、モノラル受信に切り換えると雑音を低減できる場合があります。

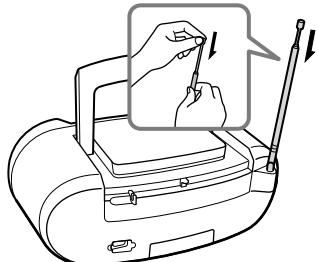
モノラル受信に切り換えるには、表示窓に「MONO」と表示されるまでモード切換ボタンを繰り返し押してください。



MONO

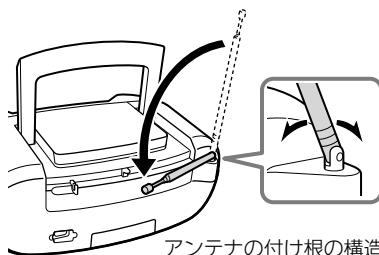
FMアンテナを収納するときは

1 FMアンテナをゆっくり縮める。



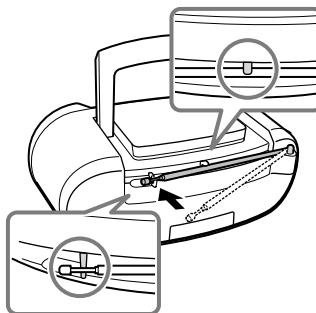
アンテナの先端を持ってゆっくりと押し下げて縮めてください。すばやく押し下げると、縮める際にアンテナが斜めになるなどして、途中で曲がったり、根元で折れたりする恐れがあります。

2 アンテナの付け根を見て、軽い力で倒せる方向を確認し、アンテナを本体にぶつからない程度に傾ける。



アンテナの付け根の構造上、図の方向にしか倒せません。不適切な方向に無理にアンテナを倒すと破損する恐れがあります。

3 傾けた状態でアンテナを水平に動かし、収納する。



放送局を自動で登録する (プリセット登録)

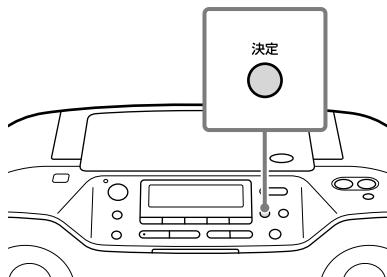
受信状態の良い放送局を自動的に検索して記憶させ、次からは記憶された番号(プリセット番号)でその局を選ぶことができます。
FM20局、AM10局の合計30局まで記憶できます。

- 1 ラジオFM/AMボタンを押してFMまたはAMを選ぶ。
- 2 オートプリセットボタンを押したままにし、「AUTO」が点滅し始めたら指を離す。



3 決定ボタンを押す。

受信状態の良い放送局の検索が始まり、プリセット番号の1番から順に、周波数の低い局から高い局へ検索された局が自動的に記憶されます。



プリセット番号を選んで放送局を記憶させるには(手動プリセット登録)
電波が弱く自動登録で放送局が記憶できなかったときや、特定のプリセット番号に放送局を記憶させたいときは、プリセット番号を選んで放送局を記憶させることができます。

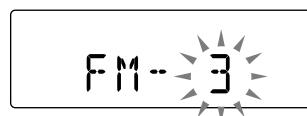
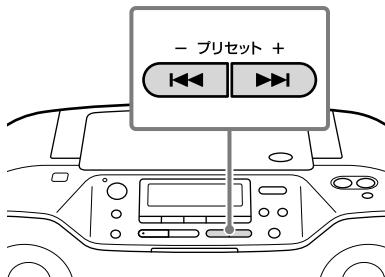
1 記憶させたい放送局を受信する。

2 手動プリセットボタン押す。

「FM-xx」または「AM-xx」の数字の部分が点滅し始めます。



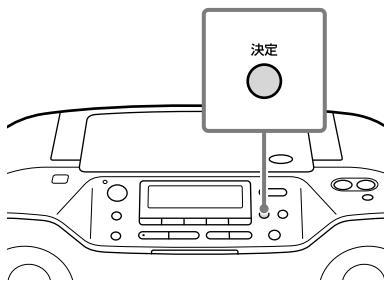
3 プリセット+または-ボタンを押して登録したい番号を選ぶ。



4 決定ボタンを押す。

登録が完了します。

手順3すでに登録済みのプリセット番号を選んだ場合は、現在受信している放送局の登録に置き換わります。



ちょっと一言

記憶させた放送局は、電源コードを抜いたり、乾電池を取り出しても消えません。

記憶させた放送局を聞く

(プリセット選局)

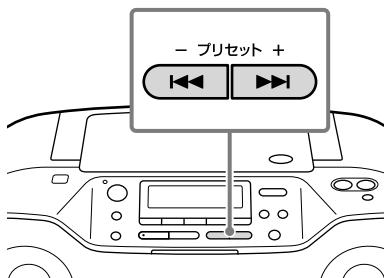
放送局を記憶させたプリセット番号を選ぶだけで、簡単に放送局を聞くことができます。

1 ラジオFM/AMボタンを押して

FMまたはAMを選ぶ。

「FM」または「AM」と、周波数が表示されます。FMとAMを切り換える場合は、再びラジオFM/AMボタンを押します。

2 プリセット+または-ボタンを繰り返し押して、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ。



プリセット番号を確認するには

ラジオ(FMまたはAM)の受信中に表示切換ボタンを繰り返し押す。

プリセット番号と周波数が交互に表示されます。

受信中の放送局が本機に登録されていない場合、プリセット番号は表示されません。



聞く

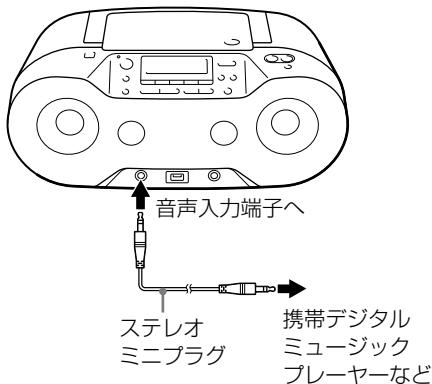
外部機器をつないで聞く

携帯デジタルミュージックプレーヤーなどの外部機器を本機の音声入力端子につないで、スピーカーから流れる音を楽しむことができます。

本機と外部機器をつなぐときは、本機と外部機器の電源を切って作業してください。

1 外部機器を本体の音声入力端子につなぐ。

別売りの音声接続コード(ステレオミニプラグ)を使って、外部機器の音声出力端子(ヘッドホン端子など)につなぎます。



2 音声入力ボタンを押す。

電源が入ります。



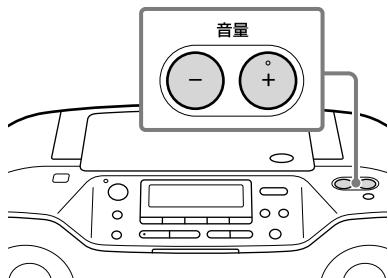
RUBIO IN

3 つないだ機器で再生を始める。

本機のスピーカーから音声が出力されます。

再生について詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

4 音量+または-ボタンを押して、音量を調節する。



ご注意

- 接続した外部機器の出力端子がモノラルジャックの場合は、本機の右側スピーカーから音が出ない場合があります。
- 接続した外部機器の出力端子がラインアウト端子の場合は、ひずみが発生する場合があります。音がひずんだ場合は、外部機器のヘッドホン端子につないでください。
- ミュージックプレーヤーのヘッドホン端子とつなぎた場合は、ミュージックプレーヤー側で音量を上げてから、本機の音量を調節してください。
- 抵抗入りの音声ケーブル(ステレオミニプラグ)を使用すると音量が小さくなることがありますので、抵抗なしの音声ケーブル(ステレオミニプラグ)をご使用ください。

ヘッドホンをつない で聞く

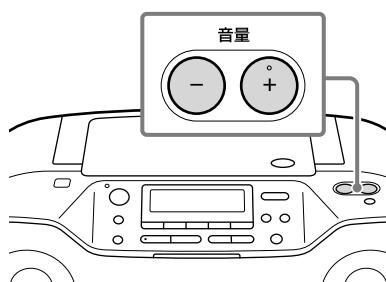
- 1 別売りのヘッドホンを本体の
□(ヘッドホン)端子につなぐ。



聞く

- 2 再生を始める。

- 3 音量+または-ボタンを押して、
音量を調節する。
耳を刺激しないように適度な音量で聞い
てください。



録音する

CDをUSB機器に録音する

録音フォーマットについて

本機でUSB機器に録音するときは、サンプリング周波数 44.1kHz(固定)、ビットレート 128kbps(固定)のMP3フォーマットで録音されます。サンプリング周波数、ビットレートは変更できません。
ただし、データCD(MP3/WMA)から録音する場合は、元のフォーマット(MP3またはWMA)とビットレートのまま録音されます。

CDをUSB機器に録音する (シンクロ録音)

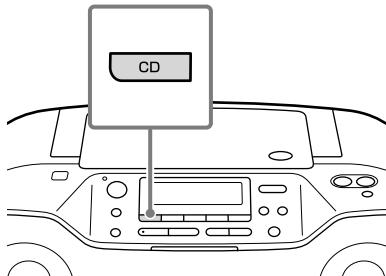
「シンクロ録音」を行うと、CDの全曲をまとめて録音することができます。

ご注意

USB機器への録音中は、USB機器を抜かないでください。データが破損するおそれがあります。

1 CDボタンを押す。

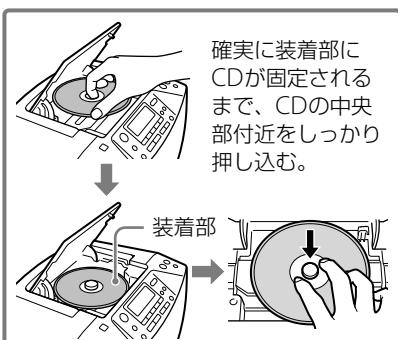
電源が入ります。



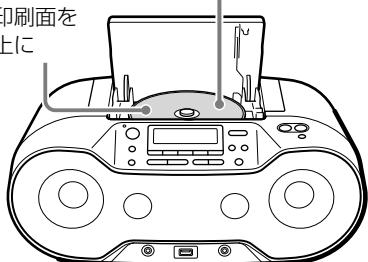
2 開/閉△部を押してCDふたを開ける。



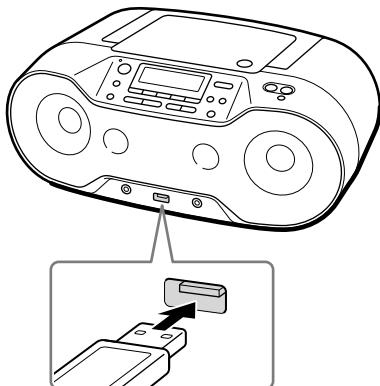
3 CDを入れて、CDふたを閉める。



印刷面を
上に



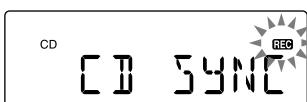
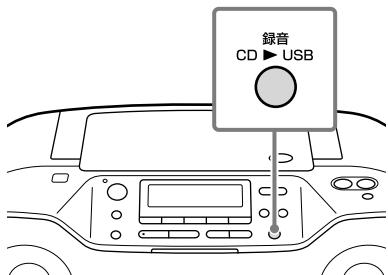
4 USB機器を差し込む。



使用できるUSB機器については「本機で使用できる機器について」(50ページ)をご覧ください。

5 CDを再生していない状態のまま、 録音ボタンを押す。

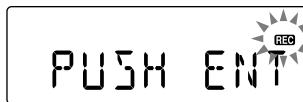
「REC」が点滅し、録音待機状態になります。同時に、USB機器の空き容量(録音可能容量)の算出が始まります。



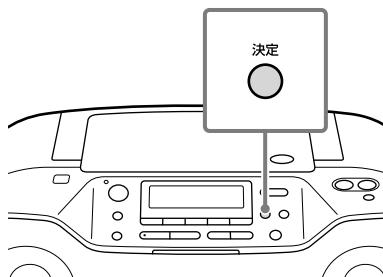
計算中は「PUSH ENT」が表示され、算出が終わると空き容量が「FREE***G」(残り***GB(ギガバイト))や「FREE***M」(残り***MB(メガバイト))と表示されます*。

録音可能容量が「LOW***M」と表示されたときは、USB機器の空き容量が足りません。いったん録音を中止し、別のUSB機器をつなぐか、不要な曲を削除して空き容量を確保してください(37ページ)。録音をやめるときは■ボタンを押してください。録音を続けるときは手順6の操作に進んでください。

* 空き容量の算出に時間がかかる場合は、空き容量の表示の前に「PUSH ENT」が表示されることがあります。この場合に決定ボタンを押すと(手順6)、空き容量の表示をスキップすることができます。



6 決定ボタンを押す。



録音が始まります。全曲の録音が完了すると、自動的に録音は停止します。



ちょっと一言
データCD(MP3/WMA)の録音中は「HI-SPEED」と表示され、音は出ません。

好きな曲順で録音するには

- 1 「CDをUSB機器に録音する(シンクロ録音)」(34ページ)の手順1～4の操作を行う。
- 2 CDのプログラム登録を行う(20ページ)。
- 3 CDを再生していない状態のまま、録音ボタンを押す。
- 4 決定ボタンを押す。

CDの曲を1曲ずつ録音するには (1曲録音)

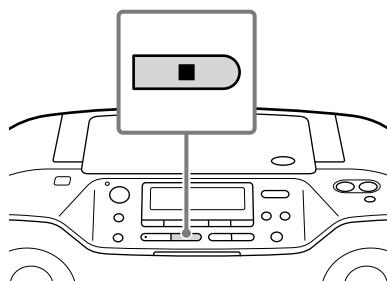
- 1 「CDをUSB機器に録音する
(シンクロ録音)」(34ページ)の手順1～
4の操作を行う。
- 2 録音したい曲を再生または一時停止状態
にする。
再生または一時停止中の曲のみを録音で
きます。
- 3 録音ボタンを押す。
- 4 決定ボタンを押す。
再生または一時停止中の曲の先頭から録
音が始まります。

ちょっと一言

録音が完了すると、自動的に録音が停止します。再
生は録音完了後も続きますので、■ボタンで停止し
てください。

録音を途中でやめるには

- ボタンを押す。



ご注意

曲の途中で録音を止めると、止めたところまで録音
されたMP3/WMAファイルが作成されます。不要
な場合は、削除して録音をやり直してください
(37ページ)。

USB機器の空き容量を確認するには

- 1 USBボタンを押す。
- 2 表示切換ボタンを押す。
USB機器の録音可能容量が表示されます。
録音可能容量は、「FREE***G」(残り
GB(ギガバイト))や「FREEM」(残り
***MB(メガバイト))と表示されます。



ご注意

再生方法が、フルダリピート再生(◀、▶)、ブ
ログラムリピート再生(◀、PGM)、フルダ再生
(▶)、プログラム再生(PGM)のいずれかに設定さ
れているときは、表示切換ボタンを押しても空き容
量の表示はできません。表示切換ボタンを押す前に、
モード切換ボタンを繰り返し押して、設定を解除し
てください。

USB機器を取り外すには

- 1 USBボタンを押す。
- 2 ■ボタンを押したままにし、「NO DEV」が
表示されたら指を離す。



「NO DEVICE」とスクロール表示された
あとで、「NO DEV」の表示になります。

- 3 USB端子からUSB機器を抜く。

ご注意

USB機器を抜くときは、必ず上記の手順に従ってく
ださい。手順に従わずにUSB機器を抜くと、USB機
器内のデータが破損したり、USB機器そのものが壊
れるおそれがあります。

録音した曲を削除する

削除するフォルダやファイルを間違えないよう、あらかじめ再生をしてフォルダ番号やファイル番号を控えておいてください。

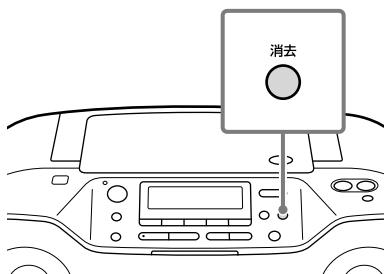
- 1** USBボタンを押してUSBファンクションに切り換え、USB機器を差し込む(15ページ)。

ご注意

シャッフル再生やプログラム再生のときは、録音した曲を削除できません。シャッフル再生やプログラム再生が設定されている場合は「SHUF」と「PGM」の表示が消えるまで、モード切換ボタンを繰り返し押して設定を解除してください。

- 2** ▶◀または▶▶ボタン(または□+またはー)を押して削除したいファイル(またはフォルダ)を選ぶ。
USB機器内のフォルダや録音データの構成については、「USB機器のフォルダ構成」(38ページ)をご覧ください。

- 3** 消去ボタンを押す。
「ERASE?」と表示されます。



4 決定ボタンを押す。

ファイルを選んだ場合

「TRACK ERASE?」と表示されます。

USB
TRACK



USB
ERASE?

フォルダを選んだ場合

「FOLDER ERASE?」と表示されます。

USB
FOLDER



USB
ERASE?

- 5** 決定ボタンを押す。

選んだ曲またはフォルダが削除され、「COMPLETE」と表示されます。

USB
COMPLETE

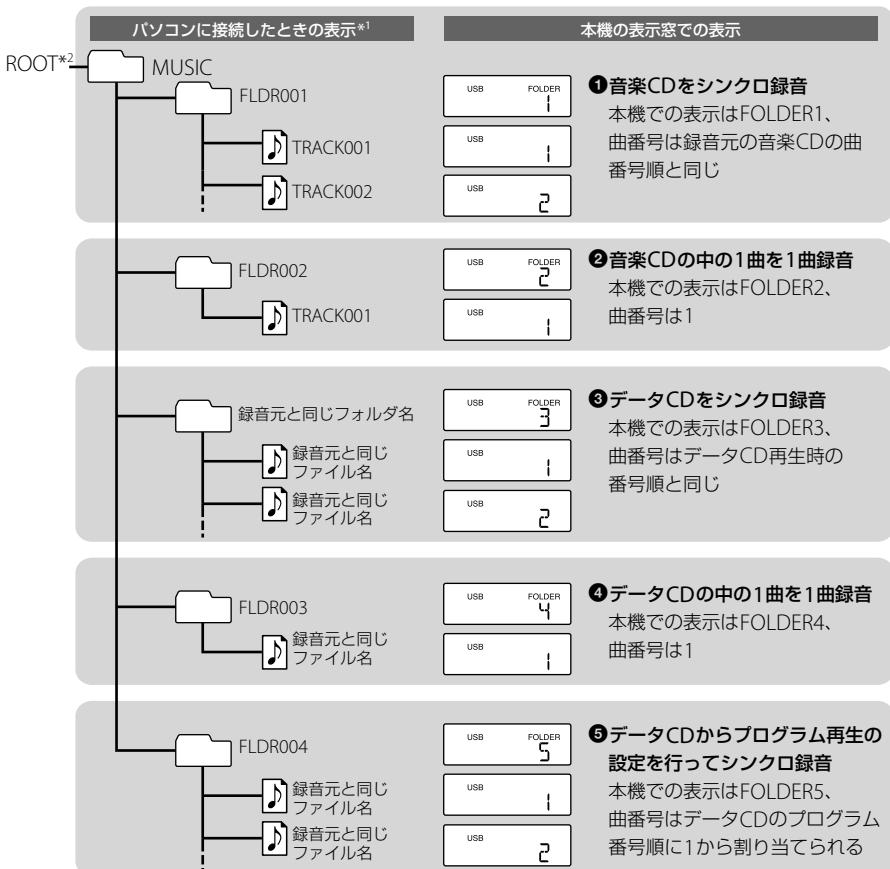
録音する

USB機器のフォルダ構成

本機でUSB機器に録音すると、録音データ(オーディオファイル)は次のフォルダ構成でUSB機器上に格納されます。本機では、フォルダ名やファイル名の代わりに、録音した順にフォルダやファイルに振られた通し番号で表示されます。

**例: 次の順で録音した場合のUSB機器上のフォルダ構成(パソコンに接続したときの
フォルダ・ファイル名)と本機での表示**

- ① 音楽CDをシンクロ録音
- ② 音楽CDの中の1曲を1曲録音
- ③ データCDをシンクロ録音
- ④ データCDの中の1曲を1曲録音
- ⑤ データCDからプログラム再生の設定を行ってシンクロ録音



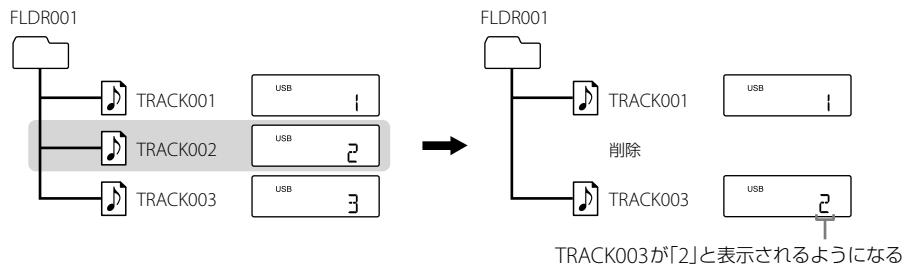
^{*1} 表示はあくまでも一例です。実際のパソコンの表示と異なる場合があります。

^{*2} USB機器のルートフォルダ

ご注意

- 本機は日本語のファイル名、フォルダ名は表示できません。また、ファイル名やフォルダ名が英数字であっても、そのまま表示するのではなく、本機が割り振る通し番号で表示します。
- 本機で表示されるフォルダ番号やファイル番号は、フォルダやファイルが削除されると通し番号が振り直されます。フォルダやファイルを削除するときは、フォルダやファイルを間違えないようあらかじめ再生して確認してください。

例：TRACK002を削除



録音する

困ったときは

本機が正しく動作しないときは、下記の項目をチェックしてください。

それでも正しく動作しないときは、ソニーの相談窓口またはお買い上げ店にお問い合わせください。

共通

電源が入らない。

- 電源コードのプラグの先端がAC IN端子の奥に当たるまでしっかりとプラグを差し込む。
- 乾電池を正しく入れる。
- 乾電池が消耗している。
→すべて新しいものと交換する。または電源コードを接続する。

電池の消耗が早い。

- 本機をマンガン乾電池でお使いの場合、使用時間が著しく短くなることがあります。乾電池で使う場合は、アルカリ乾電池をお使いください。

気がつくと表示が消え、スタンバイモードになっている。

- 本機のオートスタンバイ機能によって、無操作または無音の状態が15分経過すると自動的にスタンバイモードに移行します。詳しくは、「オートスタンバイ機能について」(9ページ)をご覧ください。

音が出ない。

- 音量を調節する。
- スピーカーで聞くときは、ヘッドホンをΩ(ヘッドホン)端子から抜く。
- 現在選択されているファンクションを、表示窓で確認する。
→ 聞きたい音源のファンクションになっていない場合は、CDボタン、USBボタン、BLUETOOTHボタン、ラジオ FM/AMボタン、音声入力ボタンからファンクションを選択して押す。

雑音が入る。

- 近くで携帯電話などの電波を発する機器を使用している。
→携帯電話などを本機から離して使用する。

CD

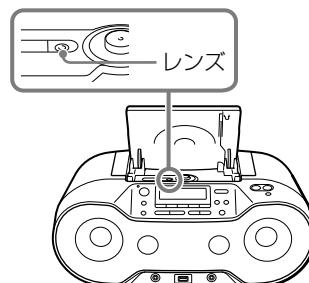
再生が始まらない。

- CDふたが閉まっていることを確認する。
- 乾電池が消耗している。
→すべて新しいものと交換する。または電源コードを接続する。
- CDに傷やひび割れがないか確認してください。傷やひび割れがある場合には、別のCDを使用してください。CDの傷やひび割れについて詳しくは、「CDの取り扱いとお手入れについて」(14ページ)をご覧ください。



CDが入っているのに「NO DISC」が表示される。

- CDが裏返し。
→印刷面を上にする。
- CDの汚れがひどい。
→「CDの取り扱いとお手入れについて」をご覧ください(14ページ)。
- レンズに露(水滴)がついている。
→CDを取り出して電源を切り、CDふたを開けたまま1時間くらい置く。



- CD-R/CD-RWに再生可能なファイルが記録されていない。
→ 対応するフォーマットを確認する(50ページ)。
- ファイナライズ処理(通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理)がされていないCD-R/CD-RWディスクは再生できません。
- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります(49ページ)。

CDが読み込まれない。**CDの再生が途中で止まる。****音が飛び。****音が割れる。**

- 乾電池が消耗している。
→ すべて新しいものと交換する。または電源コードを接続する。

音が飛び。**雑音が入る。**

- CDによっては音が飛びことがあります。
→ 音量を下げる。
- CDの汚れがひどい。
→ 「CDの取り扱いとお手入れについて」をご覧ください(14ページ)。
- CDに傷がある(14ページ)。
→ 他のCDの再生をお試しください。
- 振動のない場所に置く。
- CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって、再生された音が飛んだり雑音が入ることがあります。
- 著作権保護技術付音楽ディスクは、再生できない場合があります(46ページ)。

音が割れる、ひずむ。

- 音量が大きすぎる。
→ 音量を上げたときに音が割れたり、ひずむことがあります。そのような場合は、音量を下げて適度な音量で聞いてください。
- CDにより録音されている音量に差があります。大きな音で録音されているCDは、音量を上げたときに音が割れたり、ひずむことがあります。そのような場合は、音量を下げて適度な音量で聞いてください。

再生が最初から始まらない。

- モード切換ボタンを繰り返し押して、リピート再生/シャッフル再生/プログラム再生を解除する。

データCDのファイルを再生できない。

- 本機が対応するファイルシステムでフォーマットされているか確認する(49ページ)。
- ファイル名の拡張子が間違っているか、付いていない。
→ 対応する拡張子が付いているか確認する(50ページ)。
- オーディオファイルのフォーマットが適切でない。
→ 対応するフォーマットを確認する(50ページ)。
- MP3 PRO形式で作成されているオーディオファイルは、本機では再生できません。
- WMAファイルが、WMA DRM/WMA Lossless/WMA PRO形式で作成されている。本機は、これらの形式に対応していません。
- 本機が認識可能な最大階層(フォルダレベル)を超えており(9階層まで認識可能)。
- データCDに記録されているフォルダ数が511を超えており。
- ファイル総数が511を超えており。
- パスワードでプロテクトされたファイル、暗号化によって保護されたファイルは再生できません。

再生が始まるまでに時間がかかる。

- 次のような場合、ディスクの再生が始まるまでにしばらく時間がかかることがあります。
 - ディスク内のファイル構造が極端に複雑になっている。
 - ディスク内のフォルダ数が多すぎる、またはディスク内にMP3/WMA形式以外のファイルが含まれている。

CDを聞くと、近くのテレビやラジオに雑音が入る。

- 本機をテレビやラジオからできるだけ離す。

CDの読み込み時に「キュルキュル」と音がする。

- 読み込み時の動作音です。故障ではありません。

USB機器

USB機器が正常に動作しない。

- USB機器が本機に認識されない。
→ 本機の電源を入れ直し、USB機器を差し込み直す。
- お使いのUSB機器が対応しているか確認する(50ページ)。
非対応のUSB機器を使うと、次のような問題が発生するおそれがあります。
 - 再生が始まらない。
 - 音飛びする。
 - ノイズが混じる。
 - 音がひずむ。

「OVER CURRENT」と表示される。

- USB機器から過電流が流れている。
→ 本機の電源を切り、USB機器を抜く。

音が出ない。

- USB機器が正しく接続されていない。
→ 本機の電源を切ってからUSB機器を差し込み直し、もう一度本機の電源を入れる。

USB機器をUSB端子に差し込めない。

- コネクターが逆さになっている。
→ コネクターを正しい向きにして差し込む。
- コネクターの規格が違う。
→ コネクターの規格がタイプAのUSB機器を差し込む。ミニUSBやマイクロUSBなど異なる規格のコネクターのUSB機器は接続できません。

「READING」と表示されたまま、再生が始ままで時間がかかる。

- USB機器に記録されているファイルやフォルダの数によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。次のような対応をおすすめします。
→ 総ファイル数または総フォルダ数を100以下にする。
→ 各フォルダ内の総ファイル数を100以下にする。

表示窓に情報が正しく表示されない。

- 本機では、オーディオファイルのID3情報(曲情報(曲名/アルバム名/アーティスト名))を表示することはできません(38ページ)。
- 録音データそのものが破損している可能性があります。データを新たに作り直してください。

録音できない(「REC ERROR」と表示される)。

- USB機器の空き容量がない。
→ 不要なデータを削除する。
- 録音元データそのものが破損している可能性があります。データを新たに作り直してください。
- オーディオファイルのフォーマットが適切でない。
→ 対応するフォーマットを確認する(50ページ)。

録音中に音が出ない。

- データCDを録音中は音が出ません。

ノイズ・音飛びが発生する。

音がひずむ。

- 本機の電源を入れ直し、USB機器を差し込み直す。
- 録音データそのものにノイズやひずみの原因が混入している可能性があります。ノイズは、エンコードの過程で混入する場合もあります。このようなときは、データを新たに作り直してください。
- 音量が大きすぎる。
→ 音量を調節する。

再生が始まらない。

- 本機の電源を切ってからUSB機器を差し込み直し、もう一度本機の電源を入れる。

再生が最初から始まらない。

- モード切換ボタンを繰り返し押して、リピート再生/シャッフル再生/プログラム再生を解除する。

USB機器のファイルを再生できない。

- 本機が対応するファイルシステム*でフォーマットされていない。
- ファイル名の拡張子が間違っているか、付いていない。
→ 対応する拡張子が付いているか確認する(50ページ)。
- オーディオファイルのフォーマットが適切でない。
→ 対応するフォーマットを確認する(50ページ)。
- USB機器がパーティション分割されている。1つめのパーティションに記録されているファイルのみ再生できます。
- MP3 PRO形式で作成されているオーディオファイルは、本機では再生できません。
- WMAファイルが、WMA DRM/WMA Lossless/WMA PRO形式で作成されている。本機は、これらの形式に対応していません。
- 本機が認識可能な最大階層(フォルダレベル)を超えている(8階層まで認識可能)。
- USB機器に記録されているフォルダ数が255を超えている。
- フォルダあたりのファイル数が999を超えている。
- ファイル総数が5,000を超えている。
- パスワードでプロテクトされたファイル、暗号化によって保護されたファイルは再生できません。

* 本機が対応するファイルシステムは、「FAT16」と「FAT32」のみです。USB機器によっては、「exFAT」などほかのFAT形式でフォーマットされている場合があります。その場合には、パソコンを使って「FAT16」または「FAT32」形式にフォーマットし直す必要があります。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書で確認するか、USB機器のお買い上げ店、またはメーカーにご相談ください。

BLUETOOTH機器

音が出ない。

- 本機とスマートフォンまたはBLUETOOTH機器の距離が離れすぎていなければ、無線LANや他の2.4GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認する。
- 本機とスマートフォンまたはBLUETOOTH機器が正しく接続されているか確認する。
- 本機とスマートフォンまたはBLUETOOTH機器をもう一度ペアリングする(22、24ページ)。
- 金属物の近くや金属製のラックの上で操作すると、金属が無線通信に影響し、操作できない場合があります。
→ 金属物の近くや金属製のラックの上を避けて使用する。
- 本機とスマートフォンまたはBLUETOOTH機器の電源が入っていることを確認する。

音が途切れたり、通信距離が短い。

音が割れる。

- 音量が大きすぎる。
→ 接続しているスマートフォンまたはBLUETOOTH機器の音量を調節する。
- 無線LANやほかのBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使用する。
- 本機とスマートフォンまたはBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除く。
- 本機とスマートフォンまたはBLUETOOTH機器をできるだけ近づける。
- 本機の位置を変える。
- スマートフォンまたはBLUETOOTH機器を使う位置を変える。

BLUETOOTH接続ができない。

- 接続する機器により、接続が完了するまで時間がかかることがあります。
- ペアリングが失敗したか、完了していない。
→ 本機とスマートフォンまたはBLUETOOTH機器をもう一度ペアリングする(22、24ページ)。
- お使いのスマートフォン、BLUETOOTH機器が本機に対応しているか確認する(50ページ)。

ペアリングできない。

- 本機とスマートフォンまたはBLUETOOTH機器を近付ける。
- お使いのスマートフォンまたはBLUETOOTH機器から本機の登録を削除し、もう一度ペアリングし直す。
- お使いのスマートフォン、BLUETOOTH機器が本機に対応しているか確認する(50ページ)。

ワンタッチ接続(NFC)できない。

- お使いのスマートフォンが対応機種か確認する(24ページ)。
- スマートフォンが反応するまで本機のNマークに近づけたままにして、反応しない場合はゆっくり前後左右に動かす。
- スマートフォンにケースを付けている場合は、ケースをはずす。
- スマートフォンのNFC機能がオンになっているか確認する。
- NFCの受信感度は、お使いのスマートフォンによって異なるため、接続に何度も失敗する場合は、スマートフォンのお手元操作で接続／切断する。

ラジオ

ラジオが受信できない。

- 乾電池が消耗している。
→ すべて新しいものと交換する。または電源コードを接続する。
- 置き場所を変えてみる(28ページ)。
- アンテナの向きを変えてみる(28ページ)。

FMラジオが受信できない。

- FMアンテナが引き出されていない。FMアンテナを伸ばし、向きや角度を調整してください(28ページ)。

ラジオ受信中、音が小さい、または音質がよくない。

- 建物の中では電波が弱いので、なるべく窓際でお聞きください(28ページ)。
- 家電製品や携帯電話の近くから離す(28ページ)。

FMラジオ受信中、テレビの画像が乱れる。

- 室内アンテナを使用しているテレビの近くでFMラジオを受信している場合は、テレビから離す。

聞きたい放送局が受信できない。

- 正しいプリセット番号を選んでいない。
→ 正しい放送局のプリセット番号を選ぶ。

雑音が入る。

- 本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入る場合があります。

上記以外の症状で正常に動作しないときは、電源コードを差し込み直すか、電池を入れ直してください(8ページ)。症状が改善する場合があります。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご連絡ください。

メッセージ一覧

本機の使用中に、次の英語のメッセージが表示、または点滅することがあります。

共通

LOW BATTERY

- 乾電池が消耗している。
→すべて新しいものと交換する。または電源コードを接続する。

NOT IN USED

- 使用できないボタンを押した。

PUSH STOP

- 再生中や一時停止中には働かないボタンを押した。
→■ボタンを押して再生を停止させてから、ボタンを押す。

CD

DATA ERROR

- オーディオファイルが破損している。

FULL

- 26曲(ステップ)以上プログラムしようとした。

NO STEP

- プログラム登録した曲(ファイル)がすべて削除された。

USB

DATA ERROR

- オーディオファイルが破損している。

ERASE ERROR

- フォルダやファイルの削除に失敗した。

FATAL ERROR

- 録音中またはフォルダやファイルの削除中にUSB機器が抜かれ、データが破損したおそれがある。

その他

FULL

- 26曲(ステップ)以上プログラムしようとした。

NO DEV

- USB機器が接続されていない、または■ボタンを押したままにしてUSB機器を抜くための操作をした。

NO STEP

- プログラム登録した曲(ファイル)がすべて削除された。

NO TRK

- USB機器に再生可能なオーディオファイルがない。

NOT SUPPORT

- 本機で使用できないUSB機器が差し込まれた。

PROTECT

- USB機器が書き込み禁止となっている。
→USB機器を抜き、書き込み禁止の設定を解除する。

REC ERROR

- 録音できない。

BLUETOOTH

NO BT

- BLUETOOTH機器が接続されていない。

使用上のご注意

設置時のご注意

- 本機のスピーカーには強力な磁石を使っています。次のようなものは本機のスピーカーのそばに置かないでください。磁気が変化して不具合が起きることがあります。
 - 時計
 - クレジットカードなどの磁気カード
 - カセットテープ、ビデオテープなどの磁気テープ
- また、本機をテレビの近くには置かないでください。テレビの画像が乱れことがあります。
- 本機は防水仕様ではありません。特にキッチンなどの水場や、雨や雪、湿度の多い場所で使用するときは、水がかからないようご注意ください。
- 本機の上に重いものを置かないでください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤、薬品などが塗られている場所に本機を設置すると、変色、染みなどが残ったり、内部部品の腐食などによる接触不良やショートなどを引き起こすことがあります。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えると故障の原因になります。
- CDぶたを開けたまま放置しないでください。内部にゴミやほこりが入り、故障の原因になることがあります。
- 空気が乾燥する時期にヘッドホンを使用すると、耳にピリピリと痛みを感じることがありますが、ヘッドホンの故障ではなく、人体に蓄積された静電気によるものです。静電気の発生しにくい天然素材の衣服を身に着けていただくことにより、軽減されます。
- 本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなど、機器表面や内部に水滴がつくことがあります(結露)。結露が起きたときは電源を切り、結露がなくなるまで放置し、結露がなくなったらご使用ください。結露時のご使用は機器の故障の原因となる場合があります。

本機のお手入れのしかた

- 本体表面が汚れたときは、水気を含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。シンナー やベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

ノイズについて

- 再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。

CDについて

- 本機では円形ディスクのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状(星型、ハート型、カード型など)をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。



• CD-R/CD-RWについて

本機は、CD-DAフォーマット*で記録されたCD-R(レコードブル)およびCD-RW(リライタブル)ディスクを再生することができます。ただし、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。

* CD-DAはCompact Disc Digital Audioの略で、一般的なオーディオCDに使用されている、音楽収録用の規格です。

• 再生可能なCDについて

本機では以下のCDが再生できます。

- 音楽用CD(CD-DA)
- CD-DA/MP3/WMA(CD-R/CD-RW)

• 著作権保護機能付き音楽ディスクについて

本機は、コンパクトディスク(CD)規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本機で再生できない場合があります。

• DualDiscについて

DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。なお、この音楽専用面はコンパクトディスク(CD)規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

CDの取り扱い方

- 印刷面を上にして持ちます。
- 信号面に紙やシールなどを貼ったり、傷つけたりしないでください。
- 長時間再生しないときは、ケースに入れて保管してください。ケースに入れずに重ねて置いたり、なめに立てかけておくとそりの原因になります。



CDのお手入れのしかた

- 指紋やほこりによるCDの汚れは、音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でCDの中心から外の方向へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、CDを傷めることができますので、使わないでください。

主な仕様

CDプレーヤー部

型式	コンパクトディスクデジタルオーディオシステム
チャンネル数	2チャンネル
ワウ・フランサー	測定限界以下
周波数特性	20 Hz ~ 20,000 Hz +1/-2 dB

BLUETOOTH

通信方式	BLUETOOTH標準規格Ver.3.0
出力	BLUETOOTH標準規格Power Class 2
最大通信距離	見通し距離約10 m ¹
使用周波数帯域	2.4 GHz 帯(2.4000 GHz ~ 2.4835 GHz)
変調方式	FHSS
対応BLUETOOTHプロファイル ²	A2DP(Advanced Audio Distribution Profile)、AVRCP ³ (Audio Video Remote Control Profile) SBC ⁵
対応コーデック ⁴	SCMS-T 方式
対応コンテンツ保護	伝送帯域(A2DP) 20 Hz ~ 20,000 Hz (44.1 kHz サンプリング時)

*¹ 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わることがあります。

*² BLUETOOTHプロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。

*³ BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。

*⁴ 音声圧縮変換方式のこと

*⁵ Subband Codec の略

ラジオ部

受信周波数	FM: 76.0 MHz ~ 90.0 MHz AM: 531 kHz ~ 1,710 kHz
アンテナ	FM: ロッドアンテナ AM: フェライトバーアンテナ 内蔵

対応ファイルフォーマット

対応ビットレート	MP3(MPEG-1 AUDIO Layer-3) 32 kbps ~ 320 kbps, VBR WMA 48 kbps ~ 192 kbps, VBR
サンプリング周波数	MP3(MPEG-1 AUDIO Layer-3) 32/44.1/48 kHz WMA 32/44.1/48 kHz

共通部

スピーカー	フルレンジ: 8 cm、 コーン型3.2 Ω、2個
入力端子	音声入力(ステレオミニ ジャック)1個 USBタイプA(Full-speed USB)
出力端子	ヘッドホン(ステレオミニ ジャック)1個 負荷インピーダンス 16 Ω ~ 68 Ω
実用最大出力	2.3 W + 2.3 W (JEITA ¹ /3.2 Ω)
電源	家庭用電源 (AC100V 50/60 Hz) 単2形乾電池6本使用 (DC 9 V)(別売)
消費電力	16 W 待機時 約0.9 W/ BLUETOOTHスタンバイ時 約1.8 W
電池持続時間 ²	CD再生時(JEITA ¹) 約7.5時間(音量24程度) USB機器再生時 約7時間(負荷電流100mA 時) 約3.5時間(負荷電流 500mA時) FM受信時 約19時間 BLUETOOTH接続時 約10時間(音量24程度)
最大外形寸法	約380 mm × 158 mm × 235 mm (幅 × 高さ × 奥行き) (最大突起部含む)(JEITA ¹)
質量(本体)	約3.3 kg(乾電池含む)

付属品

電源コード(1)
取扱説明書・保証書(1)
BLUETOOTH [®] 接続ガイド(1)
保護シート(1)

*¹ JEITA(電子情報技術産業協会)規格による測定値
です。

*² ソニー単2形(LR14)アルカリ乾電池使用時。周囲
の温度や使用状況、電池のメーカーや種類により、
上記の電池持続時間と異なることがあります。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更
することがあります。ご了承ください。

著作権について

- 権利者の許諾を得ることなく、この取扱説明書の全部または一部を複製、転用、送信等を行うことは、著作権法上禁止されています。
- あなたが録音したものに著作物となるデータが含まれている場合、個人として楽しむなど私的使用の目的の他は、著作権法上、権利者に無断で使用することができません。著作権で守られたデータを録音したUSB機器、データCDなどは、著作権法で規定された範囲内で使用してください。

商標について

- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- Windows Mediaは米国および／または他の国における米国Microsoft Corporationの登録商標または商標です。
- Windows Media is either a registered trademark or trademark of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.
- This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft Corporation. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft or an authorized Microsoft subsidiary.
- BLUETOOTH®とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INC.の商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。
- 「おサイフケータイ」は株式会社NTTドコモの登録商標です。
- NマークはNFC Forum, Inc.の米国および他の国における商標あるいは登録商標です。
- Android™とGoogle Play™はGoogle Inc.の商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名、企業名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは省略している場合があります。

再生できるディスクについて

ディスクを再生するときは、ディスクの種類を確認し、本機が対応するディスクをご利用ください。

ディスクの種類	曲／ファイルのフォーマット	対応
CD、 CD-R/CD-RW ^{*1*3}	CD-DA ^{*2}	可
CD-R/CD-RW ^{*1*3}	MP3	可
	WMA	可
	AAC	不可
SA-CD(スーパーオーディオCD)	CD層	可
	SA-CD層	不可
DVD		不可
BD(ブルーレイディスク)		不可

*¹ 音楽CD(CD-DAフォーマット)の規格に準拠していない形式で記録されたCD-R/CD-RW、ISO9660Level 1/Level 2またはJolietのフォーマットに準拠しないCD-R/CD-RWは再生できません。

*² CD-DAはCompact Disc Digital Audioの略で、一般的な音楽CDに使用されている、音楽収録用の規格です。

*³ ファイナライズ処理が必要です。

ご注意

- 本機では円形のCDのみお使いいただけます。円形以外の特殊な形状(星型、ハート型、カード型など)をしたCDを使用すると、本機の故障の原因となることがあります。
- 8 cm CDは、周囲の環境や使用状況により再生できない場合があります。
- 本機はCD再生専用です。CD-R/CD-RWに録音はできません。
- CD-R/CD-RWの再生では、お使いになったディスクの品質や記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。



本機で使用できる機器について

本機で使用できるUSB機器とBLUETOOTH機器についての最新情報は、次のURLでご確認ください。
<http://www.sony.jp/support/radio/>

再生または録音するUSB機器のメモリーを選ぶには

USB機器が複数のメモリー（内蔵メモリー、メモリーカードなど）を持っている場合は、再生または録音するUSB機器のメモリーを選ぶことができます。メモリーの選択は、再生または録音の操作の前に行ってください。再生中または録音中には選べません。

- 1 USBボタンを押してUSBファンクションに切り換える、USB端子にUSB機器を差し込む。
- 2 メモリー選択ボタンを押したままにし、「SELECT?」と表示されたら指を離す。
- 3 決定ボタンを押す。
- 4 ▶◀または▶▶ボタンを繰り返し押して、メモリー番号を選ぶ。
選べるメモリーが1つしかない場合は、手順5の操作へ進んでください。
- 5 決定ボタンを押す。

USB機器に関するご注意

- USBハブを介さず、本機のUSB端子に直接USB機器を差し込んでください。
- USB機器によっては、USB機器で操作をしてから実際に本機が動くまで時間がかかる場合があります。
- USB機器のすべての機能の動作を保障するものではありません。
- 本機ではUSB機器を充電できません。

再生できるファイルについて

ファイルフォーマットについて

本機が対応するオーディオファイルのフォーマットは、次のとおりです。

- MP3(MPEG-1 AUDIO Layer-3)

拡張子:.mp3

サンプリング周波数:32/44.1/48 kHz

ビットレート:32 kbps – 320 kbps, VBR

- WMA

拡張子:.wma

サンプリング周波数:32/44.1/48 kHz

ビットレート:48 kbps – 192 kbps, VBR

ご注意

- 本機が対応するUSB機器のファイルシステムは「FAT16」と「FAT32」のみです。「exFAT」など、他のファイル形式でフォーマットされたUSB機器は再生できません。
- MP3 PRO形式で作成されているオーディオファイルは、本機では再生できません。
- WMA DRM/WMA Lossless/WMA PRO形式で作成されているWMAファイルは、本機では再生できません。
- パスワードでプロテクトされたファイル、暗号化によって保護されたファイルは再生できません。
- 上記に該当する拡張子をファイル名が持っていても、フォーマットが異なっている場合は、本機では再生できない、または再生するときに不具合が生じる場合があります。

フォルダ数・ファイル数の上限について

本機が再生対象として認識できるフォルダ数とファイル数は、次のとおりです。

- データCD(MP3/WMA)の場合

最大フォルダ数:511

最大ファイル数:511

- USB機器の場合

最大フォルダ数:255

最大ファイル数:5,000

フォルダあたりの最大ファイル数:999

BLUETOOTH機器について

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律により罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること

周波数について

本機は2.4000 GHzから2.4835 GHzの周波数で使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、次の事項に注意してご使用ください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の57ページをご覧ください。

2.4 F H 1

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10 mです。

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使い方ですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。BLUETOOTH標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のBLUETOOTHバージョンとプロファイルに対応しています。

対応BLUETOOTHバージョン：

BLUETOOTH標準規格Ver. 3.0準拠

対応BLUETOOTHプロファイル：

– A2DP(Advanced Audio Distribution

Profile)：

高音質な音楽コンテンツを送受信する。

– AVRCP(Audio Video Remote Control

Profile)：

音量の大小や再生、一時停止、停止などAV機器を操作する。

通信有効範囲

見通し距離で約10m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- BLUETOOTH接続している機器の間に人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN(IEEE802.11b/g/n)は同一周波数帯(2.4GHz)を使用するため、無線LANを搭載した機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、無線LANから10m以上離れたところで行う。
- 10m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

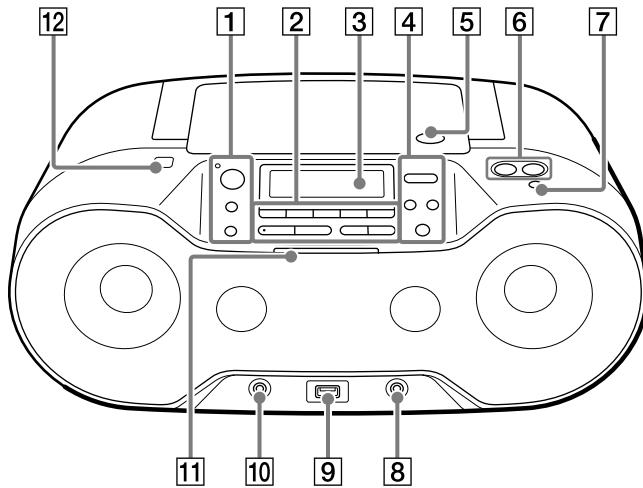
BLUETOOTH機器が発する電磁波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

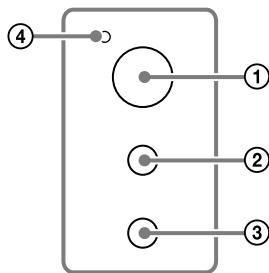
ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。
ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。
- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIGの定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

各部のなまえ

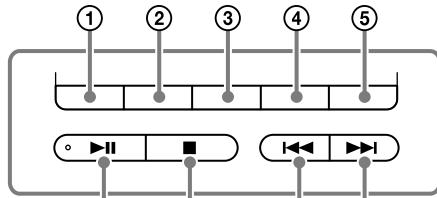


① 操作パネル(左部分)



- ① 電源ボタン
- ② モード切換ボタン
- ③ 表示切換ボタン(短く押す)
ライトシンクボタン(長く押す)
- ④ 電源/電池ランプ

② 操作パネル(中央部分)

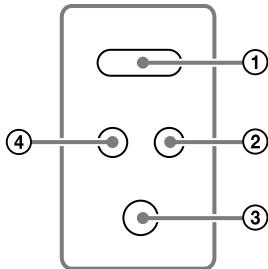


- ① CDボタン
- ② USBボタン(短く押す)
メモリー選択ボタン(長く押す)
- ③ BLUETOOTHボタン(短く押す)
ペアリングボタン(長く押す)
- ④ ラジオ FM/AMボタン(短く押す)
オートプリセットボタン(長く押す)
- ⑤ 音声入力ボタン
- ⑥ ▶▷(曲送り(短く押す)/早送り(長く押す))ボタン(CD/USB/BLUETOOTHファンクション時)
プリセット+ボタン(ラジオファンクション時)

- ⑦ **◀◀**(曲戻し(短く押す)/早戻し(長く押す))ボタン(CD/USB/BLUETOOTHファンクション時)
プリセットーボタン(ラジオファンクション時)
- ⑧ **■**(停止)ボタン
- ⑨ **▶▶**(再生/一時停止)ボタン*(CD/USB/BLUETOOTHファンクション時)
手動プリセットボタン(ラジオファンクション時)

③ 表示窓

④ 操作パネル(右部分)



- ① □+/-ボタン(CD/USBファンクション時)
選局+/-ボタン(ラジオファンクション時)
- ② 消去ボタン
- ③ 録音 CD ▶ USBボタン
- ④ 決定ボタン

⑤ CDぶた(開/閉▲)

⑥ 音量+/-ボタン

⑦ MEGA BASSボタン

⑧ ♀(ヘッドホン)端子

⑨ ♂USB端子

⑩ 音声入力端子

⑪ イルミネーション

⑫ Nマーク

* 凸点(突起)がついています。操作の目印としてお使いください。

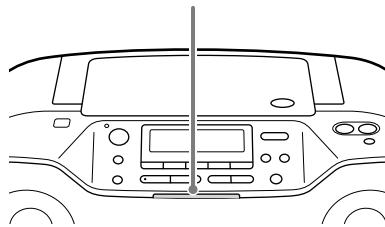
ちょっと一言

「短く押す」は、ボタンを押してすぐに指を離す操作です。「長く押す」は、ボタンを押したままにし、表示窓の表示が変わったら指を離す操作です。

イルミネーションについて

- ファンクションを切り換えると、中央部分の白が明るく点灯します。BLUETOOTHファンクションに切り換えたときは、中央部分の白が明るく点灯するとともに、両端が青く点灯します。
- 再生中は、音楽に合わせて両端が赤く点灯します。

イルミネーション



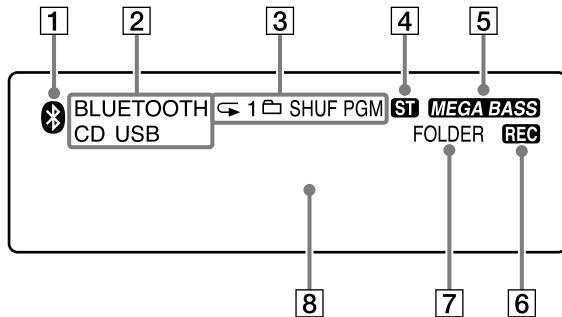
ライトシンク機能について

ライトシンク機能は、音楽に合わせてイルミネーションを点灯する機能です。お買い上げ時の初期設定ではオンになっていますが、オフに切り換えることもできます。

ライトシンク機能をオフにするには、「LIGHT SYNC OFF」と表示されるまでライトシンクボタンを押したままにしてください。オンに切り換えるときは、「LIGHT SYNC ON」と表示されるまでもう一度ライトシンクボタンを押したままにしてください。



表示窓



- [1] BLUETOOTHアイコン
BLUETOOTH接続完了時またはペアリング中に表示されます。
- [2] ファンクション表示
CD/USB/BLUETOOTHファンクション時にそれぞれ表示されます。
- [3] 再生方法表示
現在選択されている再生方法を表すアイコンが表示されます。
- [4] ST表示
FMステレオ放送の受信中に表示されます。
- [5] MEGA BASS表示
MEGA BASSがオンのときに表示されます。
- [6] REC表示
USB機器への録音中に表示されます。
- [7] FOLDER表示
フォルダ番号が表示されているときに表示されます。
- [8] テキスト情報表示
メッセージや演奏時間などが表示されます。

サポートページのご案内

ラジオ／CDラジオ・ラジカセサポートのホームページでは、よくあるお問い合わせとその回答をご案内しています。

URL:<http://www.sony.jp/support/radio/>

保証書とアフターサービス

保証書

所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう一度ご覧になつたり、サポートページ(「サポートページのご案内」(57ページ)参照)の情報も参考にしてお調べください。

それでも具合の悪いときは

お買い上げ店またはソニーの相談窓口(下記)にご相談ください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル……………0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話…050-3754-9577

修理相談窓口

フリーダイヤル……………0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話…050-3754-9599
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通)0120-333-389

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルオーディオシステムの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

索引

ア行

- 頭出し
 - CD 12
 - USB機器 16
- アンテナ 28
- イルミネーション 55
- オートスタンバイ 9
- お手入れ
 - CD 14
 - 本体 46
- 音声入力端子 32

力行

- クリーニング 14
- 繰り返し聞く 17

サ行

- 再生する
 - BLUETOOTH機器 25
 - CD 10
 - USB機器 15
 - いろいろな再生方法 17
 - 外部機器 32
 - フォルダ 19
- 削除する
 - USB機器の曲 37
 - プログラム 21
- シャッフル再生 18
- 接続する
 - BLUETOOTH機器 22
 - 電源コード 8

タ行

- データCD 11、12
- 電源
 - 接続する 8
 - 電源を入れる・切る 9
- 電池 8

ハ行

- 早送り・早戻し
 - CD 12
 - USB機器 16
- ファイル 12、13、17、38、50
- フォルダ 12、13、17、38、50
- フォルダ再生 19
- プリセット局(ラジオ)を選ぶ 31
- プログラム再生 20
- ペアリング 22
- ヘッドホン端子 33
- 本体各部のなまえと働き 54

ラ行

- ライトシンク機能 55
- ラジオ
 - アンテナを調節する 28
 - 聞く 27、31
 - 放送局を登録する 30
- リピート再生 17
- 録音する 34

A-Z

- BLUETOOTH機器
 - 使用できるBLUETOOTH機器 50
 - 接続する 22
 - ペアリングする 22
 - ワンタッチ接続(NFC) 24
- CD
 - お手入れ 14
 - 再生できるディスク 49
 - データCD 11、12
 - MEGA BASS 11
 - MP3 12、34、50
- USB機器
 - 曲を削除する 37
 - 使用できるUSB機器 50
- WMA 12、34、50

保証書

持込修理

品名 パーソナルオーディオシステム

型名 ZS-RS70BT

お買上げ日 平成・西暦 年 月 日

本書は、本書記載内容(下記記載)で無料修理を行うことをお約束するものです。お買上げの日から下記期間中に故障が発生した場合は、お客様欄にご記入の上、修理をお申付けください。

ソニー特約店

お問合せ先：修理相談窓口

フリーダイヤル：0120-222-330

携帯電話・PHS・一部のIP電話からは、050-3754-9599

ホームページ：<http://www.sony.jp/support/>

ソニーマーケティング株式会社 東京都港区港南1-7-1 〒108-0075

保証期間	お買上げの日から	1年
お客様住所 お名前	電話	- - 様

無料修理規定

- 正常な使用状態で保証期間内に製品(ハードウェア)が故障した場合には、本書に従い無料修理をさせていただきます。本書記載の修理対応の種別(出張修理、持込修理、引取修理)をご確認の上、以下の要領でご依頼および本書(再発行しませんので、大切に保管してください)の提示・提出をお願いいたします。なお、受付窓口の種類は、(1)お買上げのお店、(2)お近くのソニーサービスステーション、(3)本書に記載の修理相談窓口の3種類です。

種別	受付窓口	保証書の提示・提出	注意事項
出張修理	(1)(2)(3)	出張修理担当者が訪問した際に提示	※1
持込修理	(1)(2)	持参した製品の修理依頼の際に提示	※2
引取修理	(3)	製品の引取時に指定業者へ提出	

※1 離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理となる場合、出張費用用(実費)を申し受けます。

※2 (1)(2)へのご依頼が難しい場合は、(3)にご相談ください。

- お客様のご要望により、出張修理の種別について引取修理を、持込修理の種別について出張修理・引取修理を、引取修理の種別について出張修理を行う場合は、別途所定の料金を申し受けます。

- 保証期間内の故障でも次の場合は有料となります。

- (1)本書のご提示がない場合(2)本書にお買上げ日およびソニー特約店の記載がない場合は本書の記載を書き換えた場合(3)保証期間中に発生した故障について、保証期間終了後に修理依頼された場合(4)使用上の誤り(取扱説明書本体貼付ラベル等の注意書きに従った正常な使用をしなかった場合を含む)による故障・損傷(5)他の機器から受けた障害または不当な修理・改造による故障・損傷(6)お買上げ後の移設・輸送、落下などによる故障・損傷(7)火災、地震、風水害、落雷その他の天災地変、公害、塩害、ガス害(硫化ガスなど)、異常電圧などによる故障・損傷(8)業務用など一般家庭用以外での使用による故障・損傷(9)消耗・摩耗した部品の交換、汚損した部分の交換

- 故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

- 修理に際して再生部品・代替部品を使用する場合があります。また、修理により交換した部品は弊社が任意に回収のうえ適切に処理・処分させていただきます。

- 本書に基づく無料修理(製品交換を含む)後の製品については、最初のご購入時の保証期間が適用されます。

- 故障によりお買上げの製品を使用できなかつことによる損害については補償いたしません。

- 記録媒体を搭載または使用する製品の場合、故障の際または修理・交換により記録内容が消失等する場合がありますが、記録内容についての補償はいたしません。

- 本書は日本国内でのみ有効です。(This warranty is valid only in Japan.)

修理メモ

*本書はお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

*保証期間後の修理については、取扱説明書等をご覧ください。 TO2-4

©2013 Sony Corporation
Printed in China



* 4 4 7 0 5 4 5 0 4 *

(1)